

－目黒のサクラ再生実行計画－

# 区立公園 サクラ再生実行計画



令和5年3月

目黒区

## 目次

1. サクラ再生実行計画とは .....	1
(1) 背景 .....	1
(2) 目的 .....	1
(3) 対象の区立公園 .....	1
(4) サクラ再生実行計画作成の流れ .....	2
2. 現状と問題点 .....	3
(1) 概況 .....	3
(2) 桜の健全度(過年度の樹木調査結果の整理) .....	3
(3) 生育環境調査 .....	4
1) 調査方法 .....	4
2) 調査結果(調査票) .....	6
3) 調査結果の集計 .....	7
4) 生育上の問題点の整理 .....	12
(4) 各立地の問題点 .....	25
3. 将来像 .....	37
(1) 区立公園サクラ再生実行計画の基本方針 .....	37
(2) 将来像 .....	38
(3) 将来像実現の技術と方法 .....	46
1) 植替え品種 .....	46
2) 植栽間隔 .....	49
3) 植替え方法 - 世代交代 - .....	50
4) 根の保護と再生 .....	51
4. 桜の維持管理 .....	52
(1) 問題改善のための措置・対策 .....	52
(2) 標準の年間管理 .....	56
1) 年間管理暦 .....	56
2) 年間管理の作業内容 .....	56
(3) 住民参加 .....	63

資料

各公園の桜の概況

## 1. サクラ再生実行計画とは

### (1) 背景

桜は日本を代表する花として広く親しまれている。区立公園は自然環境の保全、運動・休息・遊戯などの区民の憩いや健康増進の場、震災時の避難場所や火災の延焼防止を目的として、目黒区内に 73 か所の公園が設置されている。区立公園のうち 50 か所の公園には桜が植栽されており、花見時には地域の方々と賑わっている。近年では桜の老齢化や生育環境の変化から健全度が低下し、安全管理上の問題や桜景観の変化が生じている。

### (2) 目的

区立公園の桜のある景観を将来にわたって引き継いでいくため、桜の生育上の問題を公園内の立地ごとに整理し、中長期的な視点から将来像、保全策や管理方法について検討を行う。検討に基づき、区立公園の桜を再生する方針として「区立公園サクラ再生実行計画」を作成する。なお実際の保全や更新・新植の際は、本計画を基本とし、個々の桜の健全度および立地環境などを踏まえて対応する。

### (3) 対象の区立公園

区立公園サクラ再生実行計画は、73 か所の区立公園のうち、個別にサクラ再生実行計画を作成している駒場野公園および碑文谷公園を除く 71 公園を対象とする。

#### 区立公園一覧

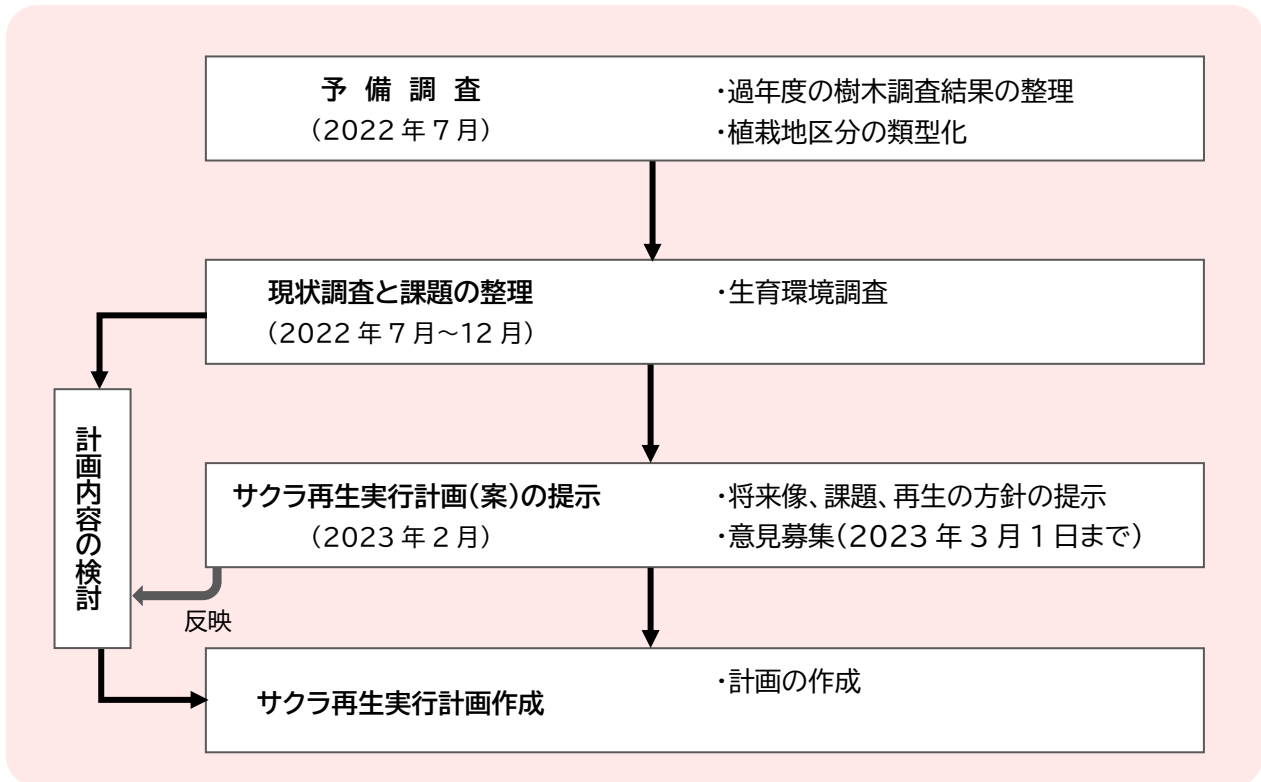
公園名	本数	公園名	本数	公園名	本数
1.松見坂公園	0	26.目黒川田道街かど公園	0	50.本町五丁目西街かど公園	0
3.駒場三丁目もちの木公園	0	27.田道広場公園	6	51.本町北公園	0
4.駒場公園	38	28.目黒区民センター公園	6	52.向原西街かど公園	1
5.西郷山公園	41	29.大塚山公園	1	53.西小山公園	1
6.菅刈公園	14	30.下二南街かど公園	0	54.原町タンポポ公園	0
7.菅刈街かど公園	0	31.大鳥公園	2	55.洗足北街かど公園	0
8.青葉台四丁目街かど公園	0	32.不動公園	5	56.洗足ひだまり公園	0
9.大坂緑地	3	33.さくらの里街かど公園	1	57.南一丁目緑地公園	2
10.東山貝塚公園	6	34.元競馬南泉公園	0	58.富士見台公園	2
11.東山街かど公園	1	35.油面公園	4	59.田向公園	7
12.東山公園	43	36.中町せせらぎ緑地公園	12	60.すすめのお宿緑地公園	14
13.目黒天空庭園	17	37.三角山公園	1	62.大岡山公園	0
14.氷川さくら公園	8	38.田切公園	10	63.境橋街かど公園	0
15.けこぼ坂街かど公園	0	39.芦毛塚街かど公園	8	64.自由が丘公園	3
16.中目黒しぜんとなかよし公園	1	40.五本木ふれあい街かど公園	1	65.中根公園	6
17.伊勢脇公園	12	41.五本木二丁目街かど公園	0	66.中根ねむの木公園	0
18.中目黒駅前町かど公園	0	42.五本木西みどり街かど公園	0	67.めぐろ区民キャンパス公園	16
19.中目黒公園	17	43.祐天寺一丁目ふれあい公園	1	68.宮前公園	21
20.中目黒南緑地公園	1	44.中央緑地公園	12	69.八雲三丁目緑地	3
21.八幡公園	1	45.こなべ野公園	0	70.衾町公園	10
22.なべころ坂緑地公園	3	46.清水池公園	13	71.やくも街かど公園	1
23.三田丘の上公園	20	47.月光原公園	2	72.東根公園	17
24.三田公園	7	48.本町みなみ街かど公園	0	73.芳窪街かど公園	7
25.茶屋坂街かど公園	0	49.金杉原南緑地公園	0		
				桜のある公園計:48公園	429

\*桜のある公園はピンクで表示

\*2.駒場野公園と61.碑文谷公園は本計画の対象外(既に計画作成済み)

#### (4) サクラ再生実行計画作成の流れ

区立公園サクラ再生実行計画は以下の手順で作成した。



##### ア) 予備調査

令和4年7月に過年度の樹木調査結果の整理を行った。次いで現状調査の調査項目や調査の立地区分を決定するための準備踏査を行った。

##### イ) 現状調査と課題の整理

令和4年7月から12月にかけて現状調査を行い、公園内の立地ごとに桜の生育上の課題を整理した。

##### ウ) サクラ再生実行計画(案)の提示

令和5年2月に「区立公園サクラ再生実行計画(案)」を区WEBサイトに掲載し地域の皆様のご意見を募集した。

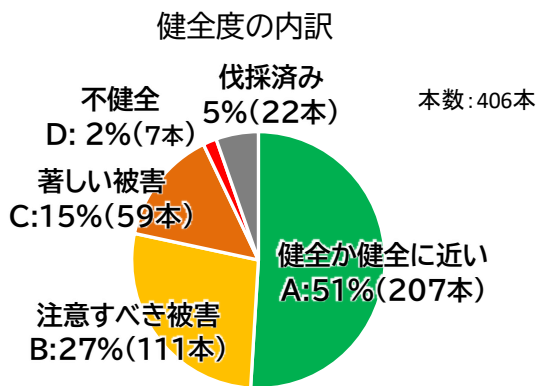
## 2. 現状と問題点

### (1) 概況

調査は碑文谷公園と駒場野公園を除いた区立公園 71 か所を対象に実施した。まず 2018（平成 30）年度に実施した「倒木危険度調査」の診断結果を集計し、桜の生育状態等を整理した。次に桜の生育環境としての問題を立地ごとに調査し、問題を分析した。調査分析の結果、特に公園の外周部や高木点在広場に生育上の問題が多かった。隣接樹木との枝葉の競合による日照不足、踏み固め等による土壌の劣化、土壌の養分の不足、桜の癒合能力を超えた強剪定が桜の健全度が低下している主な原因である。これらの改善が課題である。一方で、今回の調査では病虫害による樹勢の悪化は確認されなかった。

### (2) 桜の健全度（過年度の樹木調査結果の整理）

2018（平成 30）年度に実施した「倒木危険度調査」の診断結果を集計し桜の生育状態を整理した。この調査の判定は、A～Dの 4 段階と伐採済みの計 5 段階である。結果、計画対象の 71 公園のうち桜のある公園は 45 か所、計 406 本であった。健全度は比較的健全な A・B 判定の樹木が 318 本・78%、安全上の注意や対策が特に必要な C・D 判定の樹木が 66 本・16%であった。また台帳にあるが伐採済みの桜が 22 本・5%であった。倒木リスクの観点から原則として伐採を要する D 判定樹木は 7 本・2%と少なかった。以上から、2018 年時点の区立公園の桜は、不健全傾向が極端に進んでおらずおおむね良好に管理されていた。



区立71公園		
判定	本数(本)	割合(%)
A(健全か健全に近い)	207	51
B(注意すべき被害)	111	27
C(著しい被害)	59	14
D(不健全)	7	2
伐採済み	22	5
合計	406	100

(2018年倒木危険度調査票より)

### (3) 生育環境調査

#### 1) 調査方法

##### ア) 調査方法と項目

碑文谷公園と駒場野公園を除いた区立公園 71 か所を対象に、生育環境や管理方法など、桜の生育上の問題点がないか下表の項目について調査した。桜 1 本ごとではなく立地ごとに生育上の問題の傾向を把握した。現地調査は園路から桜のある立地（植栽地）を目視する方法を原則とし、適宜に桜に近接して目視または触診を行った。加えて、各立地で最も生育状態が悪いと思われる桜については、桜の全周を根元から樹冠まで詳細に目視で確認した。調査結果は公園ごとに調査票にまとめた。最後に各公園の調査票を集計し立地ごとの問題点を抽出し整理を行った。

生育上の問題点と調査項目

生育上の問題		生育環境調査
問題の種類	問題点	目視調査
日照	競合被圧	隣接樹木同士の枝葉の重なり、枯枝、樹木の密度・植栽間隔、日照時間
土壌	踏圧・固結	地表に露出した根、硬い表土、落葉落枝の堆積
	養分不足	落葉落枝の堆積、表土の色
	根の広がり (植栽基盤サイズ)	植株、植栽帯のサイズ、根元の舗装
	水分不足	雨水の地中への浸透(踏圧、競合・被圧)
	排水不良	水たまり
剪定・管理	越境	枝の民有地侵入、道路の建築限界侵入
	強剪定	繰り返しの中・大枝の切除
	架空線接触	中枝より太い枝の電線等への接触
	がんしゅ	複数個所の枝の異常なふくらみ
安全 リスク管理	倒木等の危険性	ベッコウタケ・コフキタケ・ナラタケ類の有無 腐朽、空洞
その他		生育不良(樹勢・樹形) 境界際の植栽 桜による施設の破壊、クビアカツヤカミキリ、 顕著な病害虫、テング巢病、その他

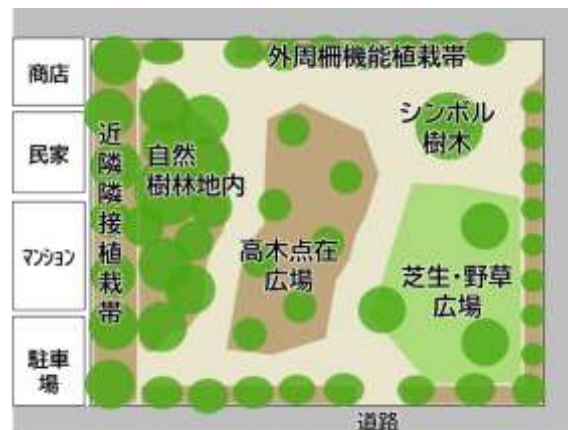
## イ) 調査単位 (立地)

桜の生育は立地環境の影響を強く受ける。区立公園には外周部や芝生地など特徴的な環境の立地が存在する。そこで今回の調査では公園内の立地を調査単位として桜の生育上の問題がないかを把握した。公園内の立地の区分は、目黒区公園施設長寿命化計画（平成31年3月改定）の植栽地区分に倣った。この12の植栽地区分のうち「藤棚」を除く11区分を桜の立地とした。

### 立地一覧表

植栽地区分	概要
① 近隣隣接植栽帯	民家や諸建物が近く、落ち葉・枝・日陰などが課題となる植栽帯
② 外周柵機能植栽帯	公園外周部で、公園機能や利用地域を区分するために設けられた上記以外の植栽帯
③ 間仕切り(目隠し)植栽帯	公園内の施設利用区分のために設けられた植栽帯
④ 高木点在広場	ボール遊びなどを抑制するなどの目的で舗装広場や遊具広場の間に高木が点在する広場
⑤ 緑陰植栽広場	ベンチや遊具施設と組み合わせた落葉高木中心の広場
⑥ シンボル樹木	公園や緑地の象徴として植えられた木や地区に古くから残る象徴木など
⑦ 自然樹林植栽帯	既存樹木を残した樹林や目黒区の古い樹林の再現を目的とした植栽帯
⑧ 修景目的植栽帯	周辺からの景観や池・流れなどと一体となってるおいや安らぎなどを醸し出す植栽帯
⑨ 建物周辺植栽帯	建物周辺に設けられた植栽帯で、建物との一体感や建物からの景観を重視した植栽帯
⑩ 日本庭園	伝統的な修景目的の庭
⑪ ふじ棚	緑陰をつくるための植栽
⑫ 芝生・野草広場	休憩・小運動の場として芝やオオバコなどの地被類で覆われた広場

※ 公園施設長寿命化計画 p.28 抜粋



立地概念図



立地例

2) 調査結果（調査票）

各公園の桜の位置を別紙「調査票」に整理して記載した。また現場調査段階の所見として、桜の現状・問題点、望ましい維持管理について立地ごとに記述した。

<調査票の例>

<p><b>68 宮前公園</b></p> <p>住所 八雲3-19-12 面積 4,117.12㎡</p>	
<p><b>桜位置図</b></p> <p>凡例 ● :サクラ ● :競合高木</p>	
<p><b>桜概況</b></p> <p><b>近隣接植栽帯</b></p> <p>桜の現状・問題点 多くの枝にがんしゅが形成され、枝の剪定あとが多く樹勢が悪化している樹木が多い。隣接樹木との距離が短い箇所がある。土壌が固結傾向にある。</p> <p>望ましい維持管理 樹木が密集している箇所は間伐を検討し、適切な植栽間隔をあげる。定期的に点検を実施し、がんしゅ形成部分の落枝の危険性や樹勢の変化を確認する。</p>	
<p><b>外周柵機能植栽帯</b></p> <p>桜の現状・問題点 多くの枝にがんしゅが形成され、架空線に接近した枝の剪定などの影響で枝の腐朽が進行し、根元にコフキタケが確認された樹木もあった。</p> <p>望ましい維持管理 枝を剪定する際は、細いうちに剪定する。大枝や中枝を切断する場合は、適切な位置で切断し保護剤を塗布する。</p>	
<p><b>高木点在広場</b></p> <p>桜の現状・問題点 周囲の高木の被圧の影響で樹形が乱れているが、生育状態は良好であった。土壌が固結しており地表に露出した根が多く、踏圧による影響も懸念される。</p> <p>望ましい維持管理 定期的に点検を実施し、根元の障害の発生や樹勢の変化を確認する。必要に応じて土壌の膨軟化を行う。</p>	



### 3) 調査結果の集計

各公園の調査票を集計し区立公園の桜の概況を把握した。

#### ア) 桜のある公園

碑文谷公園と駒場野公園を除いた区立公園 71 か所のうち、桜のある公園は下記の 48 公園であった。確認された桜は全部で 429 本あり、最も桜が多いのは東山公園で 43 本があった。一方で桜のない公園が 23 公園あった。

#### 区立公園における桜の本数

公園名	本数	公園名	本数	公園名	本数
1.松見坂公園	0	26.目黒川田道街かど公園	0	50.本町五丁目西街かど公園	0
3.駒場三丁目もちの木公園	0	27.田道広場公園	6	51.本町北公園	0
4.駒場公園	38	28.目黒区民センター公園	6	52.向原西街かど公園	1
5.西郷山公園	41	29.大塚山公園	1	53.西小山公園	1
6.菅刈公園	14	30.下二南街かど公園	0	54.原町タンポポ公園	0
7.菅刈街かど公園	0	31.大鳥公園	2	55.洗足北街かど公園	0
8.青葉台四丁目街かど公園	0	32.不動公園	5	56.洗足ひだまり公園	0
9.大坂緑地	3	33.さくらの里街かど公園	1	57.南一丁目緑地公園	2
10.東山貝塚公園	6	34.元競馬南泉公園	0	58.富士見台公園	2
11.東山街かど公園	1	35.油面公園	4	59.田向公園	7
12.東山公園	43	36.中町せせらぎ緑地公園	12	60.すずめのお宿緑地公園	14
13.目黒天空庭園	17	37.三角山公園	1	62.大岡山公園	0
14.氷川さくら公園	8	38.田切公園	10	63.境橋街かど公園	0
15.けこぼ坂街かど公園	0	39.芦毛塚街かど公園	8	64.自由が丘公園	3
16.中目黒しぜんとなかよし公園	1	40.五本木ふれあい街かど公園	1	65.中根公園	6
17.伊勢脇公園	12	41.五本木二丁目街かど公園	0	66.中根ねむの木公園	0
18.中目黒駅前町かど公園	0	42.五本木西みどり街かど公園	0	67.めぐろ区民キャンパス公園	16
19.中目黒公園	17	43.祐天寺一丁目ふれあい公園	1	68.宮前公園	21
20.中目黒南緑地公園	1	44.中央緑地公園	12	69.八雲三丁目緑地	3
21.八幡公園	1	45.こなべ野公園	0	70.衾町公園	10
22.なべころ坂緑地公園	3	46.清水池公園	13	71.やくも街かど公園	1
23.三田丘の上公園	20	47.月光原公園	2	72.東根公園	17
24.三田公園	7	48.本町みなみ街かど公園	0	73.芳窪街かど公園	7
25.茶屋坂街かど公園	0	49.金杉原南緑地公園	0		
				桜のある公園計:48公園	429

\*桜のある公園はピンクで表示

\*2.駒場野公園と61.碑文谷公園は本計画の対象外(既に計画作成済み)

- ・ 71 公園中 48 公園に桜が植わる
- ・ 確認された桜の総本数は全部で 429 本

## イ) 桜が植わっている立地

桜が確認された立地は 100 か所であった。公園外周部に位置し道路に接する「②外周柵機能植栽帯」が 27 か所 (121 本) が最も多く、次いで公園外周部に位置し民家や建築物に接する「①近隣隣接植栽帯」が 23 か所 (77 本) であった。公園の外周部にあたるこの 2 か所を合わせると 50 か所 (198 本) である。対象区立公園にある桜の 46%、桜のある立地の 50%が公園の外周部にある。公園の外周部は区立公園の桜の主要な植栽場所となっている。

舗装広場や遊戯広場の間に高木が点在する「④高木点在広場」は 15 か所 (59 本)、⑫芝生・野草広場は 7 か所 (50 本)、⑤緑陰植栽広場は 1 か所 (10 本) であった。3 か所合わせて 23 か所 (119 本) である。区立公園では広場に植わっている桜も比較的多い。これらの広場型の立地は根元まで人が立ち入り活動を行う特徴がある。その他の立地は下表のとおり。

桜が植わっている立地数と本数

立地	立地数 (か所)	桜の本数 (本)
②外周柵機能植栽帯	27	121
①近隣隣接植栽帯	23	77
④高木点在広場	15	59
⑧修景目的植栽帯	9	63
③間仕切り(目隠し)植栽帯	7	12
⑫芝生・野草広場	7	50
⑥シンボル樹木	4	4
⑦自然樹林植栽帯	4	27
⑩日本庭園	2	2
⑤緑陰植栽広場	1	10
⑨建物周辺植栽帯	1	4
合計	100	429

- ・桜が植わっている立地は 100 か所
- ・桜が植わっている立地のおよそ半数は公園の外周部
- ・根元まで人が立ち入る立地にも全体の四分の一以上の桜が植わっている

桜がある立地の一覧

立地 公園名	① 近隣隣 接植栽 帯	② 外周柵 機能植 栽帯	③ 間仕切 り(目 隠し) 植栽帯	④ 高木点 在広場	⑤ 緑陰植 栽広場	⑥ シンボ ル樹木	⑦ 自然樹 林植栽 帯	⑧ 修景目 的植栽 帯	⑨ 建物周 辺植栽 帯	⑩ 日本庭 園	⑫ 芝生・ 野草広 場	合計
1. 松見坂公園												0
3. 駒場三丁目もちの木公園												0
4. 駒場公園	○						○			○	○	4
5. 西郷山公園	○	○			○			○			○	5
6. 菅刈公園		○	○	○						○	○	5
7. 菅刈街かど公園												0
8. 青葉台四丁目街かど公園												0
9. 大坂緑地							○					1
10. 東山貝塚公園	○	○						○				3
11. 東山街かど公園	○											1
12. 東山公園	○	○		○				○			○	5
13. 目黒天空庭園								○			○	2
14. 氷川さくら公園								○				1
15. けこぼ坂街かど公園												0
16. 中目黒しぜんとなかよし公園							○					1
17. 伊勢脇公園	○	○	○	○								4
18. 中目黒駅前町かど公園												0
19. 中目黒公園		○	○					○			○	4
20. 中目黒南緑地公園								○				1
21. 八幡公園				○								1
22. なべこぼ坂緑地公園	○	○										2
23. 三田丘の上公園		○										1
24. 三田公園	○											1
25. 茶屋坂街かど公園												0
26. 目黒川田道街かど公園												0
27. 田道広場公園				○								1
28. 目黒区民センター公園	○			○				○				3
29. 大塚山公園		○										1
30. 下二南街かど公園												0
31. 大鳥公園	○											1
32. 不動公園		○	○									2
33. さくらの里街かど公園						○						1
34. 元競馬南泉公園												0
35. 油面公園	○	○		○								3
36. 中町せせらぎ緑地公園	○	○										2
37. 三角山公園	○											1
38. 田切公園	○	○		○								3
39. 芦毛塚街かど公園	○	○										2
40. 五本木ふれあい街かど公園			○									1
41. 五本木二丁目街かど公園												0
42. 五本木西みどり街かど公園												0
43. 祐天寺一丁目ふれあい公園		○										1
44. 中央緑地公園	○			○								2
45. こなへ野公園												0
46. 清水池公園		○										1
47. 月光原公園		○										1
48. 本町みなみ街かど公園												0
49. 金杉原南緑地公園												0
50. 本町五丁目西街かど公園												0
51. 本町北公園												0
52. 向原西街かど公園												0
53. 西小山公園		○										1
54. 原町タンポポ公園												0
55. 洗足北街かど公園												0
56. 洗足ひだまり公園												0
57. 南一丁目緑地公園						○					○	2
58. 富士見台公園	○	○										2
59. 田向公園		○		○								2
60. すずめのお宿緑地公園	○						○		○			3
62. 大岡山公園												0
63. 境橋街かど公園												0
64. 自由が丘公園	○					○						2
65. 中根公園		○	○	○								3
66. 中根ねむの木公園												0
67. めぐる区民キャンパス公園		○		○				○				3
68. 宮前公園	○	○		○								3
69. 八雲三丁目緑地		○										1
70. 衾町公園	○	○		○								3
71. やくも街かど公園			○									1
72. 東根公園	○	○		○								3
73. 芳窪街かど公園	○	○										2
合計	23	27	7	15	1	4	4	9	1	2	7	100

### ウ) 生育不良の立地

100 か所の立地のうち 28%にあたる 28 か所の立地では既に桜の生育状態が不良である。72%にあたる 72 か所では生育状況に問題がないか生育不良が軽微であった。生育不良であった立地は「②外周柵機能植栽帯」で9か所（全体の9%）であった。次いで「①近隣隣接植栽帯」が7か所（全体の7%）、「④高木点在広場」が4か所（全体の4%）と続いた。一方、「③間仕切り（目隠し）植栽帯」、「⑤緑陰植栽広場」、「⑩日本庭園」および「⑫芝生・野草広場」には生育不良の立地がなかった。

生育不良の有無

生育不良の有無/立地		立地数
生育不良なし・軽微		72
生育不良	①近隣隣接植栽帯	7
	②外周柵機能植栽帯	9
	③間仕切り（目隠し）植栽帯	0
	④高木点在広場	4
	⑤緑陰植栽広場	0
	⑥シンボル樹木	3
	⑦自然樹林植栽帯	2
	⑧修景目的植栽帯	2
	⑨建物周辺植栽帯	1
	⑩日本庭園	0
	⑫芝生・野草広場	0
合計		100

- ・ 28%の立地では既に桜の生育状況が不健全傾向
- ・ 生育不良は②外周柵機能植栽帯、①近隣隣接植栽帯、④高木点在広場に集中

### エ) 生育上の問題がある立地

100 か所の立地のうち 78%にあたる 78 か所には桜の生育上の問題があった。22%にあたる 22 か所では生育環境に問題がなかった。最も問題が多かった立地は「②外周柵機能植栽帯」で23か所（全体の23%）であった。次いで「①近隣隣接植栽帯」が20か所（全体の20%）、「④高木点在広場」が14か所（全体の14%）と続いた。今回確認された生育上の問題のおよそ73%がこれら3つの植栽地区分で確認された。

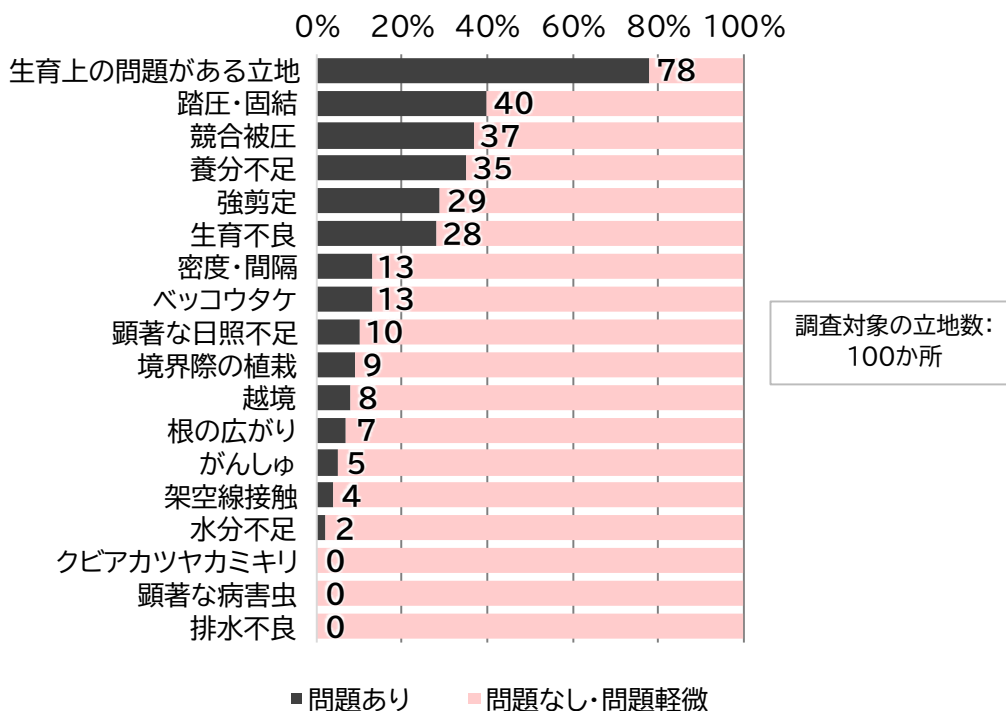
生育上の問題

問題の有無/立地		立地数
問題なし・軽微		22
問題あり	①近隣隣接植栽帯	20
	②外周柵機能植栽帯	23
	③間仕切り（目隠し）植栽帯	2
	④高木点在広場	14
	⑤緑陰植栽広場	1
	⑥シンボル樹木	3
	⑦自然樹林植栽帯	4
	⑧修景目的植栽帯	7
	⑨建物周辺植栽帯	1
	⑩日本庭園	1
	⑫芝生・野草広場	2
合計		78

- ・ 78%の立地では桜の生育環境として問題あり
- ・ 生育上の問題は②外周柵機能植栽帯、①近隣隣接植栽帯、④高木点在広場に集中

オ) 生育上の問題の内訳

最も多く見られた問題は「踏圧・固結」で40か所の立地（全体の40%）で起きていた。次いで「競合被圧」が37か所（全体の37%）、「養分不足」が35か所（全体の35%）、「強剪定」が29か所（全体の29%）と続いた。



立地ごとの問題点内訳

問題点等 桜の立地	生育不良	日照			土壌				剪定・管理			安全		その他			
		競合被圧	密度・間隔	顕著な日照不足	踏圧・固結	養分不足	根の広がり	水分不足	排水不良	越境	強剪定	架空線接触	がんしゅ	ベッコウタケ	ツヤカミキリ	クビアカ	顕著な病害虫
①近隣隣接植栽帯	7	11	2	5	11	9	3	1	0	4	6	1	2	2	0	0	5
②外周柵機能植栽帯	9	9	5	2	9	8	4	1	0	2	10	3	2	3	0	0	4
③間仕切り(目隠し)植栽帯	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
④高木点在広場	4	7	1	1	13	12	0	0	0	0	7	0	0	4	0	0	0
⑤緑陰植栽広場	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥シンボル樹木	3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0
⑦自然樹林植栽帯	2	4	3	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0
⑧修景目的植栽帯	2	4	2	1	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
⑨建物周辺植栽帯	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩日本庭園	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑫芝生・野草広場	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0

4) 生育上の問題点の整理

区立公園で確認された生育上の問題について調査項目ごとに整理した。

ア) 日照不足

● 競合被圧

競合被圧とは、隣接樹木同士の枝葉が重なり日照が不足することをいう。桜は典型的な陽樹であり日陰の枝は容易に枯れる。一部の枝の競合被圧であれば大きな問題はないが、桜全体が終日日陰になっていると生育環境として大きな問題となる。

【区立公園の現状】

今回の調査では、隣接樹木の枝葉が競合し複数の枯枝や枯下りを示す場合に競合被圧があるとした。調査の結果、競合被圧は公園の外周部（近隣隣接植栽帯、外周柵機能植栽帯）、高木点在広場、自然樹林植栽帯、修景目的植栽帯などで確認された。

①近隣隣接植栽帯	11	⑦自然樹林植栽帯	4
②外周柵機能植栽帯	9	⑧修景目的植栽帯	4
③間仕切り(目隠し)植栽帯	1	⑨建物周辺植栽帯	1
④高木点在広場	7	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	0
⑥シンボル樹木	0		

(単位:か所)



西郷山公園 外周柵機能植栽帯  
周囲の高木の被圧により著しく樹勢が悪化している



宮前公園 高木点在広場  
周囲の高木の影響で樹形が大きく乱れる

●密度・植栽間隔

ソメイヨシノの理想的な植栽間隔は 10m とされているところ、区立公園では隣接樹木との間隔が 2~3m 程度しかないソメイヨシノがある。植栽密度が高い樹林地内の桜や植栽間隔の短い桜は、競合被圧が発生しやすい環境となる。

【区立公園の現状】

今回の調査では、植栽地の桜と隣接樹木の間隔が 4m 以下の場合に生育環境に問題があるとした。調査の結果、こうした状況は外周部や自然樹林植栽帯などで確認された。

①近隣隣接植栽帯	2	⑦自然樹林植栽帯	3
②外周柵機能植栽帯	5	⑧修景目的植栽帯	2
③間仕切り(目隠し)植栽帯	0	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	1	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	0
⑥シンボル樹木	0	(単位:か所)	



三田丘の上公園 外周柵機能植栽帯  
樹木が密集し日照量が不足している。枯死に近い状態の樹木もある



八雲三丁目緑地 外周柵機能植栽帯  
2本の桜の植栽間隔が狭く一方の樹勢が悪化している

●顕著な日照不足

競合被圧での記載と重複するが、桜は典型的な陽樹であり日射の要求が強い。特に午前中の生長活動をしている時間帯に必要な日射を確保することが重要であり、そのためには東～南方向が開けていることが必要である。

【区立公園の現状】

今回の調査では、終日日向・半日日向・終日日陰の3段階で評価し、終日日陰の場合には生育環境に問題があるとした。調査の結果、こうした状況が外周部などで確認された。

①近隣接植栽帯	5	⑦自然樹林植栽帯	1
②外周柵機能植栽帯	2	⑧修景目的植栽帯	1
③間仕切り(目隠し)植栽帯	0	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	1	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	0
⑥シンボル樹木	0	(単位:か所)	



目黒区民センター公園 高木点在広場  
周囲を高木に囲まれ枯れ下っている



富士見台公園 近隣接植栽帯  
中層住宅と高木に囲まれている



イ) 土壌

●踏圧（踏み固め）・土壌固結

根や土壌の日常的な踏み固めや、自然に進む土壌の劣化による固結のこと。踏圧・固結により根が衰退、地上部も根に応じて衰退し、枯下りから枯死に向かう。利用者が立ち入る場所に顕著な枯下りや地表に露出した根が見られる場合は、踏圧・固結の影響を受けている可能性が非常に高い。

【区立公園の現状】

今回の調査では、枯下りや根の露出に加え、表土が硬く（足裏の感触）、落葉落枝の堆積が不十分な場合に生育環境に問題があるとした。調査の結果、こうした状況は利用者が立ち入る高木点在広場や外周部などで確認された。

①近隣隣接植栽帯	11	⑦自然樹林植栽帯	0
②外周柵機能植栽帯	9	⑧修景目的植栽帯	1
③間仕切り(目隠し)植栽帯	1	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	13	⑩日本庭園	1
⑤緑陰植栽広場	1	⑫芝生・野草広場	2
⑥シンボル樹木	1		

(単位:か所)



伊勢脇公園 外周柵機能植栽帯  
太根が地表に露出する。土壌の固結や浅い有効土層が原因の可能性が高い



油面公園 高木点在広場  
太根が地表に露出する。根元まで人が立ち入る立地であり踏圧の可能性が高い



中央緑地公園 高木点在広場  
太根の露出はそれほど顕著でないが、明るい土色や硬い触覚から土壌は固結していると判断できる。地上部は大きく枯れこんでおり、踏圧に加え競合被圧の影響があると推測される。



●養分（保肥力）

土が養分を蓄える力と桜に供給される養分のこと。落葉の堆積と分解が未発達だと土壌が蓄えることのできる養分量が少ない。養分が豊富な土壌は黒～黒褐色だが、区立公園では褐色～明褐色の場所が多くある。また都市の緑地に見られるアルカリ性に傾いた土壌は、桜に養分を供給する能力が低く根の伸張も阻害する。養分不足は花付きを悪くするほか、健全度をゆっくりと低下させる。

【区立公園の現状】

今回の調査では表土の明度が名褐色～褐色を示す場合に生育環境に問題があるとした。調査の結果、こうした状況は利用者が立ち入る高木点在広場や外周部などで確認された。

①近隣隣接植栽帯	9	⑦自然樹林植栽帯	0
②外周柵機能植栽帯	8	⑧修景目的植栽帯	1
③間仕切り(目隠し)植栽帯	1	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	12	⑩日本庭園	1
⑤緑陰植栽広場	1	⑫芝生・野草広場	1
⑥シンボル樹木	1		

(単位:か所)



中根公園 高木点在広場  
灰色をした砂質の土壌。色から腐植含有量が少ないことがわかる



土色のスケール

●根の広がり（植栽基盤サイズ）

健全な根がはる事の出来る範囲のこと。アスファルト等の雨水を通さない舗装に挟まれた狭い植栽基盤では、養水分の不足による樹勢不良や、水分不足による夏季の枯れが起こりうる。植木鉢状になった狭い植栽では根詰まりによる生育不良にも注意が必要である。

【区立公園の現状】

今回の調査では、樹木サイズに対して、植栽、植栽帯のサイズが小さい場合、根元際まで舗装がある場合に生育環境に問題があるとした。調査の結果、こうした状況が外周部で確認された。

①近隣隣接植栽帯	3	⑦自然樹林植栽帯	0
②外周柵機能植栽帯	4	⑧修景目的植栽帯	0
③間仕切り(目隠し)植栽帯	0	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	0	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	0
⑥シンボル樹木	0	(単位:か所)	



葦毛塚街かど公園 外周柵機能植栽帯  
コンクリート製の腰高の植栽柵に植わる



大塚山公園 外周柵機能植栽帯  
公園の敷地境界際に植栽されており植栽帯の幅が狭い

●水分不足

アスファルト等の非透水性舗装に挟まれた狭い植栽帯や、踏圧に問題があり、かつ他の樹木に覆われている桜では、雨水の地中への浸透が不十分で土壤に蓄えられた水分が不足する。夏季の渇水時に水分不足による障害が生じている可能性がある。

【区立公園の現状】

今回の調査では、踏圧があり、かつ他の樹木の樹冠に覆われているなど、水分の地中への浸透が不十分と推測される場合に生育環境に問題があるとした。調査の結果、こうした状況が次の立地でわずかに確認された。

①近隣隣接植栽帯	1	⑦自然樹林植栽帯	0
②外周柵機能植栽帯	1	⑧修景目的植栽帯	0
③間仕切り(目隠し)植栽帯	0	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	0	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	0
⑥シンボル樹木	0	(単位:か所)	



不動公園 外周柵機能植栽帯  
土壤の高さを切り下げのような工事がされており、高植状になっている



東根公園 近隣隣接植栽帯  
樹木に対し植栽帯が狭く土壤は固結傾向、根元の日当たりと風通しがよいため乾燥しやすい

●排水不良

地中に水分が停滞すると酸素不足により根が衰退し（いわゆる根腐れ）、地上部は梢端の枯れが発生する。蘚苔類が地表に繁茂するような場所で梢端枯れ症状を示す桜がある場合は、透水性の調査を実施することが望ましい。今回の区立公園の調査では雨後の帯水などは見られなかった。

ウ) 剪定・管理

●越境

公園外周部の桜は、成長するにつれ枝が公園外に伸長し、隣接する民地や道路の建築限界へ越境する。道路構造令により、道路には車や歩行者の安全な通行を確保すべき空間（建築限界）が定められている。

【区立公園の現状】

今回の調査では、幹、大枝または小枝が道路の建築限界に抵触している場合、または私有地側へ小枝が侵入した場合に生育環境に問題があるとした。調査の結果、外周部に若干の越境があった。また、以前に太い越境枝を切断したあとがあった。

①近隣隣接植栽帯	4	⑦自然樹林植栽帯	2
②外周柵機能植栽帯	2	⑧修景目的植栽帯	0
③間仕切り(目隠し)植栽帯	0	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	0	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	0
⑥シンボル樹木	0		(単位:か所)



すずめのお宿緑地公園 自然樹林植栽帯  
下枝が車道の建築限界を越境している



●強剪定（越境枝・架空線接触枝対策、枯下がり枝の切断）

太い枝を剪定や切断すること。切断箇所から腐朽が発生し、次第に枯れの範囲が幹の方に拡大、樹勢の低下や樹形の崩壊が生じる。特に桜は剪定後の傷口の治りが遅く問題となりやすい。

【区立公園の現状】

今回の調査では、繰り返しの中・大枝の切除により腐朽や樹勢悪化が著しい場合に生育環境に問題があるとした。調査の結果、越境等が起きやすい外周部、日照不足により枯下り易い高木点在広場、古木が多いシンボル樹木などで確認された。

①近隣接植栽帯	6	⑦自然樹林植栽帯	1
②外周柵機能植栽帯	10	⑧修景目的植栽帯	2
③間仕切り(目隠し)植栽帯	0	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	7	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	0
⑥シンボル樹木	3		

(単位:か所)



すずめのお宿緑地公園 近隣接植栽帯  
架空線への接触を防止するために強剪定  
がされている



中根公園 高木点在広場  
被圧による枯下りを切除したために強剪  
定となった事例

●架空線接触

公園外周部の桜が敷地外に伸長し、道路上の電線、電話線、通信線等に接触すること。枝の成長をそのままにすると、枝が強く擦れて架空線を損傷する。

【区立公園の現状】

今回の調査では、中枝より太い枝が電線や電話線等に接触している場合に生育環境に問題があるとした。調査の結果、中枝との接触や樹幹内に架空線が通っている事例が確認された。

①近隣接植栽帯	1	⑦自然樹林植栽帯	0
②外周柵機能植栽帯	3	⑧修景目的植栽帯	0
③間仕切り(目隠し)植栽帯	0	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	0	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	0
⑥シンボル樹木	0	(単位:か所)	



不動公園 外周柵機能植栽帯  
架空線が樹冠内を通る



田切公園 外周柵機能植栽帯  
架空線が樹冠内を通る

●がんしゅ

枝の途中にこぶができ、発生部位から先の枝が枯れて落枝する病気。発生すると、数年をかけて徐々に枝枯れが広がり樹冠が小さくなる。樹形も乱れる。原因は菌類や細菌であり、伝染の拡大は雨滴による飛散や昆虫による媒介による。

【区立公園の現状】

今回の調査では、複数個所の枝に異常なふくらみがあれば生育環境に問題があるとした。調査の結果、こうした状況が次の立地でわずかに確認された。

①近隣接植栽帯	2	⑦自然樹林植栽帯	0
②外周柵機能植栽帯	2	⑧修景目的植栽帯	0
③間仕切り(目隠し)植栽帯	0	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	0	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	1
⑥シンボル樹木	0		

(単位:か所)



駒場公園 芝生・野草広場  
枝の途中ががんしゅ状になり膨らんでいる



東山公園 近隣接植栽帯  
がんしゅ状のふくらみの先に枝折あとがある



エ) 安全リスク管理

●倒木等の危険性（ベッコウタケ）

ベッコウタケ、コフキタケ、ナラタケ類は特に注意すべき腐朽菌である。根元～幹を腐らせ、樹木の支持力を奪い、倒木、根返りまたは折損事故を起こしている。また倒木に至らなくても、樹勢が低下し枯下り等が発生すると、鑑賞性や緑化樹木としての機能が低下することがある。ベッコウタケは地際部の内部を腐らせ特に病原性が高い。都市環境によく適合し街路樹や公園でしばしば発生している。コフキタケはベッコウタケよりは病原性が低いが同じく注意が必要である。ナラタケ類は都市部では稀にしか見られないが、寄生性が強く急速に枯死が進む。(P. 57「安全上注意すべき項目」を参照)

【区立公園の現状】

今回の調査では、特に危険なベッコウタケの子実体について調査をした。根元まで利用者が立ち入る高木点在広場や外周部などでベッコウタケが確認された。

①近隣隣接植栽帯	2	⑦自然樹林植栽帯	1
②外周柵機能植栽帯	3	⑧修景目的植栽帯	0
③間仕切り(目隠し)植栽帯	1	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	4	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	1
⑥シンボル樹木	1	(単位:か所)	



衾町公園 高木点在広場  
新しいベッコウタケが確認できる



自由が丘公園 シンボル樹木  
新しいベッコウタケが確認できる

## オ) その他

### ●敷地境界付近への植栽

敷地境界付近にソメイヨシノ等の高木となる樹木を植栽すると、肥大成長に伴いフェンス、フェンス基礎、または縁石などの構造物と干渉し破壊することがある。また桜にとっても接触部分からの腐朽の発生や、敷地外へ伸張した太枝の日常的な切断が行われ、樹勢低下、腐朽の発生、枯下りに至ることがある。剪定や腐朽に弱い桜にとってはリスクの高い立地である。

### 【区立公園の現状】

今回の調査では、幹から境界まで 1.0m 未満の場合は生育環境に問題があるとした。調査の結果、こうした状況が外周部で確認された。

①近隣隣接植栽帯	5	⑦自然樹林植栽帯	0
②外周柵機能植栽帯	4	⑧修景目的植栽帯	0
③間仕切り(目隠し)植栽帯	0	⑨建物周辺植栽帯	0
④高木点在広場	0	⑩日本庭園	0
⑤緑陰植栽広場	0	⑫芝生・野草広場	0
⑥シンボル樹木	0		

(単位:か所)



三田公園 近隣隣接植栽帯  
地際部が擁壁に接触する



大塚山公園 外周柵機能植栽帯  
フェンスに接触する

### ●病害虫

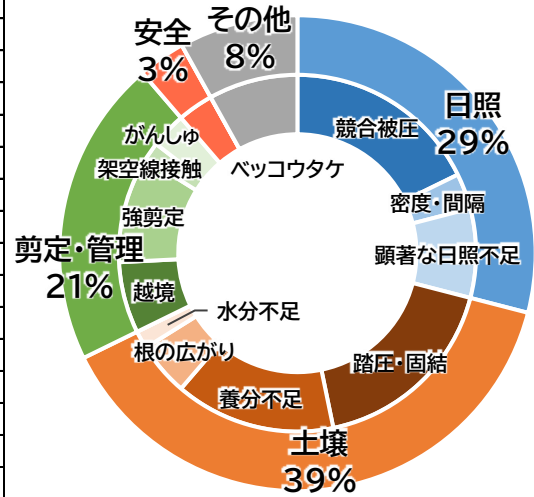
クビアカツヤカミキリおよび顕著な病害虫は確認されなかった。

(4) 各立地の問題点

①近隣隣接植栽帯

①近隣隣接植栽帯の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	11	18
	密度・間隔	2	3
	顕著な日照不足	5	8
土壌	踏圧・固結	11	18
	養分不足	9	15
	根の広がり	3	5
	水分不足	1	2
	排水不良	0	0
剪定・管理	越境	4	6
	強剪定	6	10
	架空線接触	1	2
	がんしゅ	2	3
安全リスク管理	ベッコウタケ	2	3
その他	クビアカツカミキリ	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	5	8



公園の外周部で民有地等に隣接する。生育上の問題が顕著に多く発生し 23 か所のうち 20 か所に問題がある。問題は日照、土壌、剪定・管理、安全リスク管理の多岐にわたる。特に隣接樹木と建物にかこまれた極端な日照不足、隣接樹木との競合被圧、踏圧・固結の影響が大きい。養分不足、強剪定の影響もある。越境も見られる。生育不良は 23 か所のうち 7 か所に発生しており他の立地より比較的多い。今後様々な問題により桜が衰退する可能性が高い。

- ・ 近隣隣接植栽帯は 23 か所 (桜のある立地全体の 23%)
- ・ 生育上の問題があるのは 20 か所 (近隣隣接植栽帯の 87%)
- ・ 既に桜が生育不良であるのは 7 か所 (近隣隣接植栽帯の 30%)



東山貝塚公園

隣地の中層住宅や競合高木により樹勢の悪化が見られた。



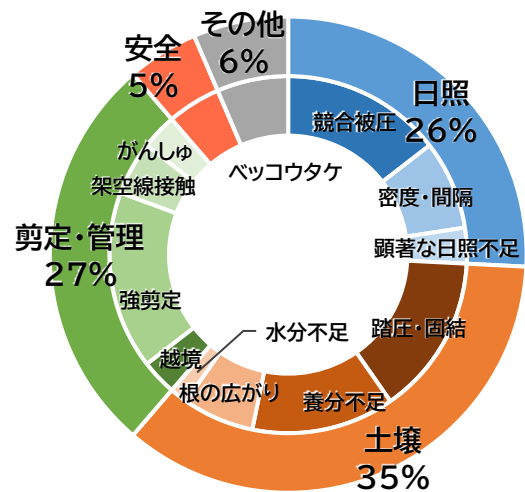
なべころ坂緑地公園

植栽帯の幅が狭く、土壌が固結しているため、根が地表に露出し縁石を乗り越えてはみ出している。境界際に植栽され、隣地の住宅側へ枝が越境している。

②外周柵機能植栽帯

②外周柵機能植栽帯の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	9	15
	密度・間隔	5	8
	顕著な日照不足	2	3
土壌	踏圧・固結	9	15
	養分不足	8	13
	根の広がり	4	6
	水分不足	1	2
	排水不良	0	0
剪定・管理	越境	2	3
	強剪定	10	16
	架空線接触	3	5
	がんしゅ	2	3
安全リスク管理	バッコウタケ	3	5
その他	死アカツガミサ	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	4	6



公園の外周部で道路に隣接する。生育上の問題が比較的多く発生し27か所のうち23か所に問題がある。問題は日照、土壌、剪定・管理、安全リスク管理の多岐にわたる。特に競合被圧、踏圧・固結、強剪定の影響が大きい。道路の歩行・走行空間へ伸びた太い枝を剪定した傷あとが多くある。生育不良は27か所のうち9か所に発生しており他の立地より顕著に多い。今後様々な問題により桜が衰退する可能性が高い。

- ・外周柵機能植栽帯は27か所（桜のある立地全体の27%）
- ・生育上の問題があるのは23か所（外周柵機能植栽帯の85%）
- ・既に桜が生育不良であるのは9か所（外周柵機能植栽帯の33%）



清水池公園

近接樹木や競合高木による被圧の影響が見られた。南側の歩道沿いの樹木は植柵が狭小であることに加え、大枝が切断されており、樹勢が悪化している。



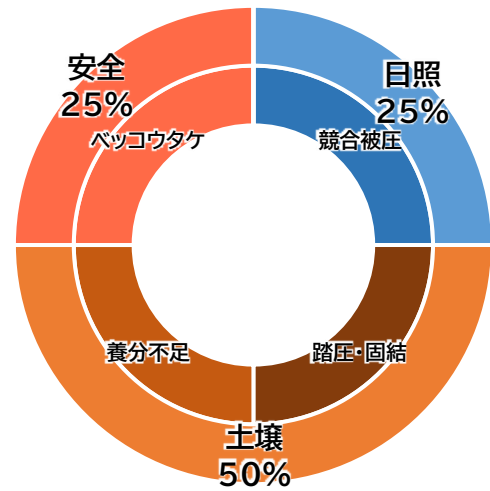
東根公園

バッコウタケの発生が確認された。競合高木の被圧により多くの枝が剪定され、樹勢が悪化し一部の太枝に腐朽が見られた。土壌が固結傾向にある。

### ③間仕切り（目隠し）植栽帯

#### ③間仕切り(目隠し)植栽帯の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	1	25
	密度・間隔	0	0
	顕著な日照不足	0	0
土壌	踏圧・固結	1	25
	養分不足	1	25
	根の広がり	0	0
	水分不足	0	0
	排水不良	0	0
剪定・管理	越境	0	0
	強剪定	0	0
	架空線接触	0	0
	がんしゅ	0	0
安全リスク管理	バッコウタケ	1	25
その他	死アカツカミリ	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	0	0



公園内のエリアを区切る立地で公園によりさまざまな形態をとる。生育上の問題があるのは7カ所のうち2カ所と比較的少ない。一部で確認された生育上の問題には、日照、土壌、安全リスク管理がある。中型の品種や近年植栽された若木が多いため生育不良の立地は確認されなかった。長期的には樹木の生長に伴い、土壌の問題が桜の生育に影響する可能性がある。

- ・桜のある間仕切り（目隠し）植栽帯は7か所（桜のある立地全体の7%）
- ・生育上の問題があるのは2か所（桜のある間仕切り（目隠し）植栽帯の29%）
- ・生育不良の間仕切り（目隠し）植栽帯はない



中目黒公園

植栽間隔も適度で、土壌環境も良く、過度な剪定もされていないため、生育状態は良好であった。



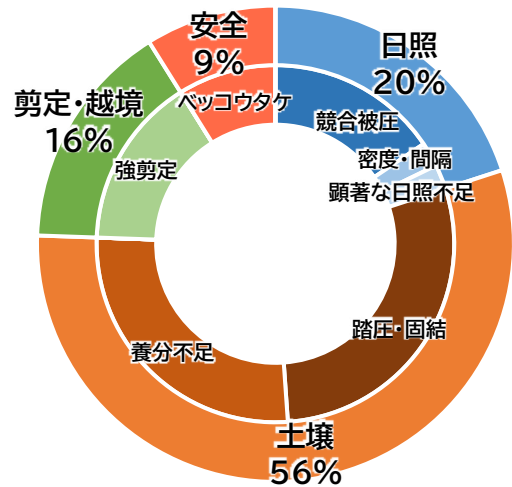
不動公園

（この立地では数少ない健全度の低い桜）2本のうちの1本は腐朽が拡大しており、枝葉も少なく、回復が見込めない程度まで樹勢が悪化している。もう1本の生育状態は良好であった。

#### ④高木点在広場

##### ④高木点在広場の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	7	16
	密度・間隔	1	2
	顕著な日照不足	1	2
土壌	踏圧・固結	13	29
	養分不足	12	27
	根の広がり	0	0
	水分不足	0	0
	排水不良	0	0
	越境	0	0
剪定・管理	強剪定	7	16
	架空線接触	0	0
	がんしゅ	0	0
安全リスク管理	ベッコウタケ	4	9
その他	クビアカツカミナリ	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	0	0



遊びや運動を目的とした広場に桜などが点在する。生育上の問題が顕著に多く発生し15か所のうち14か所に問題がある。生育上の問題は日照、土壌、剪定・管理、安全リスク管理の多岐にわたるが、特に踏圧・固結と養分不足といった土壌の問題、ベッコウタケの影響が大きい。競合被圧、強剪定の影響もある。ベッコウタケが多く確認されているのは、利用者が桜の根元付近を歩くことで傷つきやすいためと推測される。生育上の問題は顕著に多いが、桜の生育に重要な日照の問題が少ないため、今のところ生育不良は15か所のうち4か所(27%)と区立公園の平均的な発生率にとどまっている。今後土壌の問題により桜が徐々に衰退する可能性が高い。一部ではベッコウタケにより急速に衰退する可能性がある。

- ・高木点在広場は15か所(桜のある立地全体の15%)
- ・生育上の問題があるのは14か所(高木点在広場の93%)
- ・既に桜が生育不良であるのは4か所(高木点在広場の27%)



中央緑地公園

中枝や大枝が切断され、樹形が乱れている。土壌が固結しており、近接樹木との植栽間隔が狭く、競合高木の被圧により樹勢が悪化している樹木もみられた。



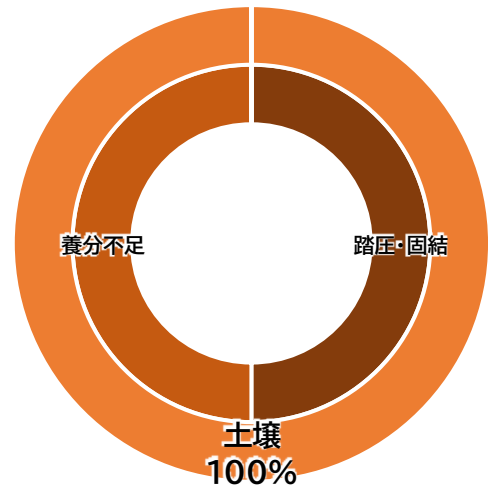
田道広場公園

1本のみがんしゅやコフキタケが確認され樹勢の悪化が見られたが、それ以外の生育状態は良好であった。土壌が固結しており、今後の影響が懸念される。

⑤緑陰植栽広場

⑤緑陰植栽広場の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	0	0
	密度・間隔	0	0
	顕著な日照不足	0	0
土壌	踏圧・固結	1	50
	養分不足	1	50
	根の広がり	0	0
	水分不足	0	0
	排水不良	0	0
剪定・管理	越境	0	0
	強剪定	0	0
	架空線接触	0	0
	がんしゅ	0	0
安全リスク管理	バッコウタケ	0	0
その他	死アカイガミリ	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	0	0



桜のある緑陰植栽広場は西郷山公園の 1 か所であった。ここでは芝生・野草広場と一体となって緑陰を提供している。根元まで人が立ち入るため土壌に問題があったがそれ以外には大きな問題がなく、芝生・野草広場と類似の環境と推測される。根元を保護する草がなく根元まで人が立ち入るため、長期的には土壌の問題が桜の生育に徐々に影響する可能性が高い。

- ・緑陰植栽広場は 1 か所（桜のある立地全体の 1%）
- ・生育上の問題があるのは 1 か所（緑陰植栽広場の 100%）
- ・生育不良の緑陰植栽広場はない



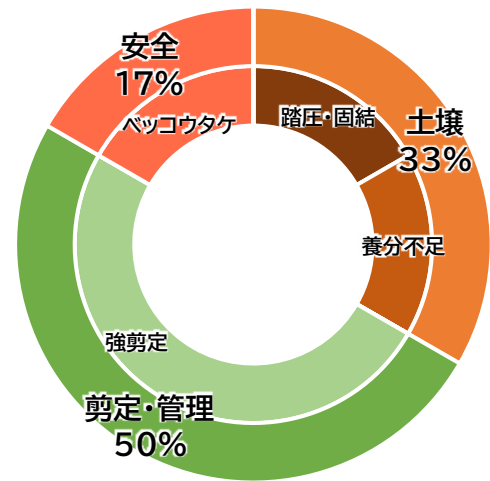
西郷山公園

概ね生育状態は良好だが、1 本だけ周囲の競合高木からの被圧のためか樹勢が著しく悪化し回復の見込みがない樹木があった。

⑥シンボル樹木

⑥シンボル樹木の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	0	0
	密度・間隔	0	0
	顕著な日照不足	0	0
土壌	踏圧・固結	1	17
	養分不足	1	17
	根の広がり	0	0
	水分不足	0	0
	排水不良	0	0
剪定・管理	越境	0	0
	強剪定	3	50
	架空線接触	0	0
	がんしゅ	0	0
安全リスク管理	ベッコウタケ	1	17
その他	クビアカツカミナリ	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	0	0



公園や緑地の象徴として植えられた木や地区に古くから残る象徴木などである。生育上の問題は4か所のうち3か所(75%)と区立公園の平均的な確率で発生している。他の高木から離れているため日照の問題は起きていない。古木には枯枝や腐った太い枝を剪定した強剪定のあとが多く、幹や根元には木を腐らすベッコウタケやコフキタケなどのキノコも発生している。土壌が固結し肥料分が不足する。長年生育してきた古木が多いため、4か所のうち3か所で生育不良が発生しており他の立地より顕著に多い。積極的に保全を行わないとこれらのキノコによる腐朽が拡大し、樹体支持力の低下、樹勢の悪化、樹形の乱れが起こる可能性が高い。

- ・シンボル樹木は4か所(桜のある立地全体の4%)
- ・生育上の問題があるのは3か所(シンボル樹木の75%)
- ・既に桜が生育不良であるのは3か所(シンボル樹木の75%)



さくらの里街かど公園

切断された大枝から腐朽が進行し、幹、根元にコフキタケが確認された。望ましい樹形の崩壊が進行しており、ケーブルで傾いた樹体を支持している。



南一丁目緑地公園

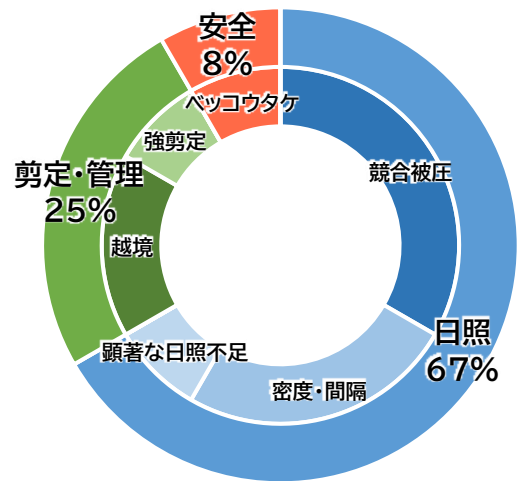
隣接する住宅の方に傾いており、支柱とブレーシングで樹体を支えている状態となっている。大枝の腐朽が進行し、腐朽菌、がんしゅが多く発生している。



⑦自然樹林植栽帯

⑦自然樹林植栽帯の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	4	33
	密度・間隔	3	25
	顕著な日照不足	1	8
土壌	踏圧・固結	0	0
	養分不足	0	0
	根の広がり	0	0
	水分不足	0	0
	排水不良	0	0
	越境	2	17
	強剪定	1	8
剪定・管理	架空線接触	0	0
	がんしゅ	0	0
	安全リスク管理	バッコウタケ	1
その他	死アカツガミ判	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	0	0



雑木林や自然林の中に背の高い桜が点在する。生育上の問題が顕著に多く発生し 4 か所全てに問題がある。問題は日照、剪定・管理、安全リスク管理におよぶ。特に他の高木が近くにあるため、顕著な日照不足や競合被圧による樹勢・樹形の異常、枯下りが起こっている。公園の外周部にある自然樹林植栽帯では越境もおきている。桜にとって重要な日照が不足しやすいため、4か所のうち2か所で生育不良が発生しており他の立地より顕著に多い。今後日照不良により生育不良が拡大する可能性が高い。

- ・ 自然樹林植栽帯は 4 か所（桜のある立地全体の 4%）
- ・ 生育上の問題があるのは 4 か所（自然樹林植栽帯の 100%）
- ・ 既に桜が生育不良であるのは 2 か所（自然樹林植栽帯の 50%）



すずめのお宿緑地公園

樹木が密集しており、競合高木の被圧により道路側に枝が偏って伸長している。隣接樹木と接近している樹木や建築限界を越境している枝が散見された。



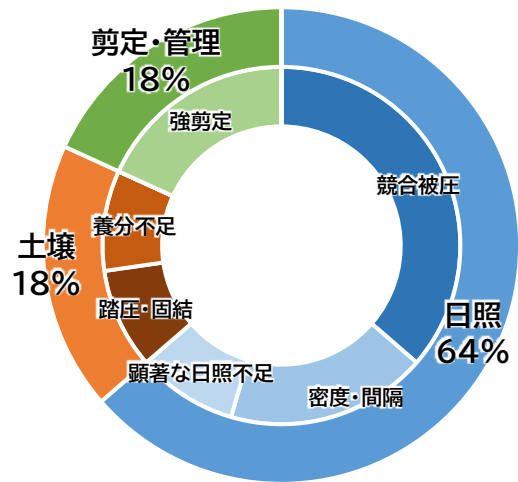
駒場公園

周囲に競合する樹木が多く、密集している箇所もあり、被圧により全体的に樹勢が悪化傾向であった。大枝の腐朽や、バッコウタケの発生も確認された。

⑧修景目的植栽帯

⑧修景目的植栽帯の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	4	36
	密度・間隔	2	18
	顕著な日照不足	1	9
土壌	踏圧・固結	1	9
	養分不足	1	9
	根の広がり	0	0
	水分不足	0	0
	排水不良	0	0
剪定・管理	越境	0	0
	強剪定	2	18
	架空線接触	0	0
	がんしゅ	0	0
安全リスク管理	バッコウタケ	0	0
その他	クビアカツカミナリ	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	0	0



池・流れなどと一体となつてうおいや安らぎなどを醸し出す植栽帯であり公園によりさまざまな形態をとる。生育上の問題は9か所のうち7か所（78%）と区立公園の平均的な割合で発生している。桜の生育上の問題は日照、土壌、剪定・管理があり、特に競合被圧や密度・間隔の狭さが問題である。ただし近年植栽された若木が多いため、生育不良は9か所のうち2か所にとどまり少ない。長期的には樹木の生長に伴い日照環境が桜の生育に影響する可能性が高い。

- ・ 修景目的植栽帯は9か所（桜のある立地全体の9%）
- ・ 生育上の問題があるのは7か所（修景目的植栽帯の78%）
- ・ 既に桜が生育不良であるのは2か所（修景目的植栽帯の22%）



めぐろ区民キャンパス公園  
若木のため、生育状態は良好であり、問題は見られなかったが、一部で競合高木の被圧を受けているため今後の影響が懸念される。

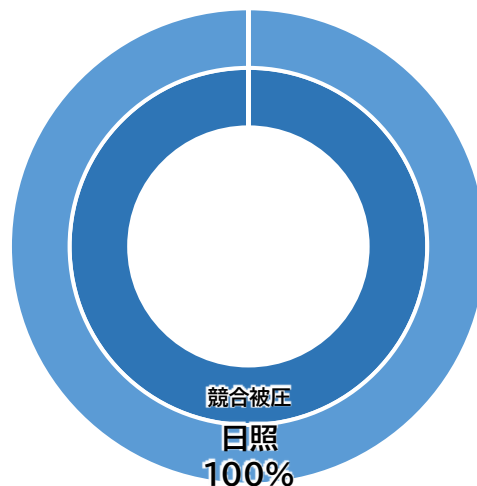


氷川さくら公園  
樹齢の若い樹木と推測され、生育状態に問題は見られなかった。

⑨建物周辺植栽帯

⑨建物周辺植栽帯の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	1	100
	密度・間隔	0	0
	顕著な日照不足	0	0
土壌	踏圧・固結	0	0
	養分不足	0	0
	根の広がり	0	0
	水分不足	0	0
	排水不良	0	0
剪定・管理	越境	0	0
	強剪定	0	0
	架空線接触	0	0
安全リスク管理	がんしゅ	0	0
その他	バックウタケ	0	0
	クビアカツカミキリ	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	0	0



桜のある建物周辺植栽帯はすずめのお宿緑地公園の1カ所のみであった。建物周辺に設けられた植栽帯であるが、今回は建物による直接的な影響は見られなかった。他の高木とともに混植されているため競合被圧がおきているのが問題である。

- ・建物周辺植栽帯は1カ所（桜のある立地全体の1%）
- ・生育上の問題があるのは1カ所（建物周辺植栽帯の100%）
- ・既に桜が生育不良であるのは1カ所（建物周辺植栽帯の100%）



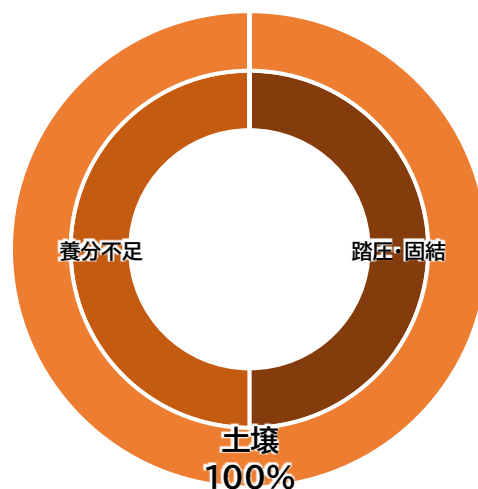
すずめのお宿緑地公園

樹木が密集しており、競合高木の被圧により樹勢が悪化している樹木が確認された。実生から成長したと見られる競合樹木も多く見られた。

⑩日本庭園

⑩日本庭園の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	0	0
	密度・間隔	0	0
	顕著な日照不足	0	0
土壌	踏圧・固結	1	50
	養分不足	1	50
	根の広がり	0	0
	水分不足	0	0
	排水不良	0	0
剪定・管理	越境	0	0
	強剪定	0	0
	架空線接触	0	0
	がんしゅ	0	0
安全リスク管理	バッコウタケ	0	0
その他	クビアカツカミナリ	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	0	0



伝統的な修景目的の庭である。桜のある日本庭園は駒場公園と菅刈公園の 2 か所のみであった。菅刈公園の桜は庭園的なこまやかな管理がされていると推測される。駒場公園では土壌の踏圧・固結により太根が顕著に地表に露出しており土壌の養分が少ないのが問題である。

- ・日本庭園は 2 か所（桜のある立地全体の 2%）
- ・生育上の問題があるのは 1 か所（日本庭園の 50%）
- ・日本庭園では生育不良の桜はない



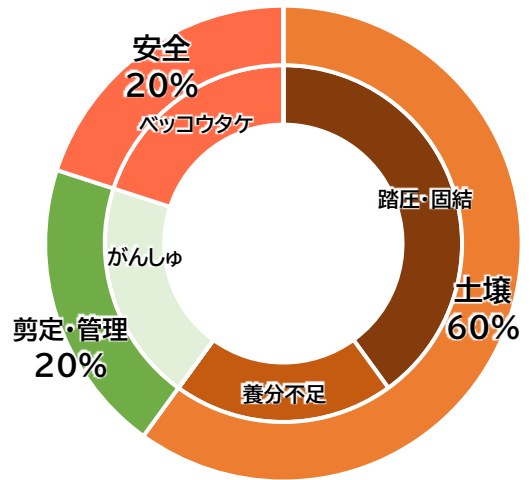
駒場公園

生育状態は良好だが、土壌が固結しており、多くの根が地表に露出している。

⑫芝生・野草広場

⑫芝生・野草広場の問題点

問題の種類	問題点	問題のある箇所数	(%)
日照	競合被圧	0	0
	密度・間隔	0	0
	顕著な日照不足	0	0
土壌	踏圧・固結	2	40
	養分不足	1	20
	根の広がり	0	0
	水分不足	0	0
	排水不良	0	0
剪定・管理	越境	0	0
	強剪定	0	0
	架空線接触	0	0
	がんしゅ	1	20
安全リスク管理	ベッコウタケ	1	20
その他	死アザミガミサキ	0	0
	顕著な病害虫	0	0
	境界際の植栽	0	0



芝生などに覆われた広場に桜が点在する。生育上の問題があるのは7か所のうち2か所と比較的少ない。根元が芝生で保護されているとこともあり生育不良の立地は確認されなかった。一部で土壌、剪定・管理、安全リスク管理の問題が確認された。一部でベッコウタケが確認されているのは、利用者が桜の根の上を歩くことや芝刈りによって根元が傷つきやすい環境であることが影響していると推測される。長期的には土壌の問題が桜の生育に影響する可能性がある。

- ・芝生・野草広場は7か所（桜のある立地全体の7%）
- ・生育上の問題があるのは2か所（芝生・野草広場の29%）
- ・生育不良の芝生・野草広場はない



駒場公園

概ね生育状態は良好だが、周囲の競合高木の被圧により枝の分布が偏っており、がんしゅが形成されている。土壌が固結しており、ベッコウタケの発生も散見された。

ア) 立地の傾向～問題のまとめ～

各立地の問題を下表にまとめた。

問題点まとめ

立地区分	生育上の問題がある割合	生育不良の割合	問題の傾向
①近隣隣接植栽帯	87%	30%	区立公園の平均と比較し生育上の問題が顕著に多い。生育不良も比較的多い。特に隣接樹木と建物に囲まれるなどの極端な日照不足、競合被圧、踏圧・固結の影響が大きい。今後様々な問題により桜が衰退する可能性が高い。
②外周柵機能植栽帯	85%	33%	区立公園の平均と比較し生育上の問題が多い。生育不良は顕著に多い。特に競合被圧、踏圧・固結、強剪定の影響が大きい。道路の歩行・走行空間へ伸びた太い枝を剪定した傷あとが多くある。今後様々な問題により桜が衰退する可能性が高い。
③間仕切り(目隠し)植栽帯	29%	0%	区立公園の平均と比較し生育上の問題は少ない。中型の品種や近年植栽された若木が多いため生育不良の立地は確認されていない。一部に日照、土壌、安全リスク管理の問題がある。長期的には樹木の生長に伴い、土壌の問題が桜の生育に影響する可能性がある。
④高木点在広場	93%	27%	区立公園の平均と比較し生育上の問題が顕著に多い。桜の生育に重要な日照の問題が少ないため、生育不良は区立公園の平均的な発生率にとどまる。特に日常的な利用者の立入りによる踏圧・固結や養分の不足といった土壌の問題、根元を腐らすベッコウタケの影響が大きい。今後土壌の問題により桜が徐々に衰退する可能性が高い。一部ではベッコウタケにより急速に衰退する可能性がある。
⑤緑陰植栽広場	-	-	調査対象が1か所だけであったため判断できず。(芝生・野草広場と類似の環境と推測されるが、根元を保護する草がなく根元まで人が立ち入るため、長期的には土壌の問題が桜の生育に影響する可能性が高い。)
⑥シンボル樹木	75%	75%	他の区立公園と比較し平均的な確率で生育上の問題が生じている。生育不良は顕著に多い。古木であるため強剪定のあとが多く、幹や根元には木を腐らすベッコウタケやコフキタケなどが発生している。積極的に保全を行わないとこれらのキノコによる腐朽が拡大し、樹体支持力の低下、樹勢の悪化、樹形の乱れが起こる可能性が高い。
⑦自然樹林植栽帯	100%	50%	区立公園の平均と比較し生育上の問題が顕著に多い。生育不良も顕著に多い。特に他の高木が近くにあるため、顕著な日照不足や競合被圧による樹勢・樹形の異常、枯下りが起こっている。今後日照不良により生育不良が拡大する可能性が高い。
⑧修景目的植栽帯	78%	22%	他の区立公園と比較し平均的な確率で生育上の問題が生じている。近年植栽された若木が多いため生育不良の立地は少ない。特に競合被圧や密度・間隔の狭さが問題である。樹木の生長に伴い日照環境が桜の生育に影響する可能性が高い。
⑨建物周辺植栽帯	-	-	調査対象が1か所だけであったため判断できず。(すずめのお宿緑地公園では建物による直接的な影響は見られなかった。他の高木とともに混植されているため競合被圧がおきているのが問題。)
⑩日本庭園	-	-	調査対象が少ないため判断できず。(駒場公園では土壌の踏圧・固結により太根が顕著に地表に露出しており土壌の養分が少ないのが問題である。)
⑫芝生・野草広場	29%	0%	区立公園の平均と比較し生育上の問題は少ない。根元が芝生で保護されているところもあり生育不良の立地は確認されなかった。一部で土壌、剪定・管理、安全リスク管理の問題が確認された。長期的には土壌の問題が桜の生育に影響する可能性がある。

凡例	
<span style="background-color: #90EE90; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	対象となる区立公園の平均よりも少ない
<span style="background-color: #FFFFFF; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	平均並み
<span style="background-color: #FFD700; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	平均より多い
<span style="background-color: #FF6347; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	平均より著しく多い
<span style="background-color: #808080; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	- サンプル不足

対象区立公園全体	
生育上の問題がある立地	生育不良の桜がある立地
(78%)	(28%)

### 3. 将来像

#### (1) 区立公園サクラ再生実行計画の基本方針

桜の健全度や生育環境を踏まえ、区立公園サクラ再生実行計画の基本方針を以下のとおりとする。これに基づき各立地の将来像を設定した。

##### ア) 目標

###### ●桜のある景観を将来に引き継ぐ

『春の高揚感を感じられる、健全で見ごたえのある桜を将来に引き継ぐ』をコンセプトとする。街から公園を見たときの第一印象となる外周部の桜の景観を再生する。古くから愛されるシンボル樹木については、桜の健全性、安全性や緑化機能を適切に評価・検討したうえで、現在の景観を保全する。比較的生育環境のよい芝生・野草広場では桜を補植して桜のある景観を充実させる。これら保全・再生・充実により桜のある景観を将来に引き継ぐ。

##### イ) 将来像実現の前提条件

###### ●安全な公園空間の確保

区立公園の桜は、春の景観を彩り癒しを提供する。一方で、一部の桜では幹や根株の腐朽やベッコウタケ等による空洞化がおき、倒木または折損による人身・物損事故等の発生リスクが生じている。今後も快適・安心・安全な公園利用が行えるよう、桜の健全度を把握し安全確保に必要な措置を行い、桜の健全で美しい生育と安全な公園の両立を図る。

###### ●調和ある計画

桜の保全・再生・充実は、散策や運動などの様々な公園利用と両立し、調和を図りながら実施するものとする。

###### ●快適性の確保

太い根が地表に露出し利用者がつまづく原因（根上り）となっているため、生育環境の改善を通じ根上りの予防に努める。維持管理の改善により枯れ枝の発生を減らし美しい桜を実現する。健全な枝葉を増やし緑陰機能や民有地との緩衝機能を望ましいレベルに維持する。

###### ●桜に適した環境への改善・管理の実行

桜の生育環境には適地と不適地がある。適地の桜は良好に成長し長期にわたって健全な状態を維持する。不適地の桜は、生育不良、腐朽菌への感染、樹形の乱れや花付きの減少などが起こる。桜が持つ、陽樹、中～浅根性、腐朽が生じやすいという性質を踏まえ、日照、土壌、剪定管理などの問題を桜に適したものに改善する。生育環境や管理手法の見直しは個々の桜の状況に応じて行うが、本計画で明らかにした立地ごとの傾向を踏まえ対策・措置を行う。

## (2) 将来像

立地ごとに目標となる将来像を定めた。現状と将来像を見比べ必要な措置を検討し、「再生」、「保全」、「充実」のタイプに分類した。

### ■ 保全タイプ

剪定等の標準的な維持管理に加え、適宜、土壌のエアレーション等の生育環境改善を行い、今ある桜が健全に生育できる環境を整備・維持する。

### ■ 再生タイプ

今ある桜を保全しつつ、健全化困難な桜の段階的な世代交代や、適正間隔での植替えにより桜景観の再生を目指す。

### ■ 充実タイプ

今ある桜を保全しつつ、日照の確保や隣地への越境に注意しながら補植を行い、見ごたえのある桜景観への充実を図る。

## 立地別の将来像一覧

立地区分	タイプ	将来像
①近隣隣接植栽帯	■再生	他の樹木と共存するコンパクトな樹形の桜を目指す
②外周柵機能植栽帯	■再生	コンパクトな樹形に満開の桜を目指す
③間仕切り(目隠し)植栽帯	■保全	若木の健全な成育を見守る
④高木点在広場	■保全	根が地表へ露出することを予防し、桜に優しく人も歩きやすい環境に整える
⑤緑陰植栽広場	■保全	根をいたわり健全な成育を維持する
⑥シンボル樹木	■保全	手厚い手当てにより、シンボルに相応しい見ごたえのある桜とする
⑦自然樹林植栽帯	■再生	日照を改善し樹林地に映える桜を目指す
⑧修景目的植栽帯	■保全	日照を確保し園内を彩る壮年期の桜に育てる
⑨建物周辺植栽帯	■保全	日照を改善し今ある桜と他の樹木との共存を目指す
⑩日本庭園	■保全	土壌の改良により、庭園に相応しい見ごたえのある桜を目指す
⑫芝生・野草広場	■充実	広い空間と芝生で根が守られていることを活かしたゆとりある樹形の桜を目指す





## 再 ①近隣隣接植栽帯

将来像：他の樹木と共存するコンパクトな樹形の桜を目指す

公園と隣接民有地を遮蔽するため豊かな枝葉が望まれる。問題は多岐にわたるが、競合樹木の剪定による日照の確保と民有地への枝葉の越境対策が必須である。今ある桜はこまめな剪定により民有地への越境を防止しつつ、日照と土壤環境の改善により樹勢を向上させる。健全化が困難な桜は植替える。植替えの際はより公園の内側に寄せて植栽するなど日照の確保に努める。隣接樹木と中層住宅に囲まれるなど極端な日照不足の解消が期待できない場所については、桜以外の樹種に植替える必要がある。今後様々な問題により桜が衰退する可能性が高いため改善措置の優先順位は高い。

### <管理・環境改善の手法>

- 日照**・隣り合う樹木の枝葉を剪定し、日当たりを改善・維持する
  - ・近くに衰退した樹木があれば間引く
- 管理**・隣接民有地への越境を見越し、計画的・周期的にこまめに剪定する
  - ・枝は公園内に伸ばす
  - ・太枝の剪定は適切な位置で行い傷を癒合剤で保護する
- 土壌**・エアレーションなどを行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する
  - ・肥料を与え、新たな枝葉の萌芽・再生を促進する
- 植替**・植替えの際には、適切な日照と樹木間隔を確保する
  - ・境界から距離をとり公園の内側に寄せて植える
  - ・中型～小型の品種の桜または、極端な日照不足の場所は桜以外に植替える

将来像に近い桜



目黒区民センター公園  
近隣隣接植栽帯



三田公園  
近隣隣接植栽帯

## 再 ②外周柵機能植栽帯

将来像：コンパクトな樹形に満開の桜を目指す

外周部に位置し公園の第一印象となる立地である。良好な桜景観を再生する必要がある。問題は多岐にわたるが、競合被圧対策と強剪定の原因になる越境枝対策が必須である。健全化が困難な桜は植替える。植替えの際は空間サイズを考慮した品種を選び適正な樹木間隔で植栽する。道路に隣接していることを踏まえ育成段階から将来樹形を想定した剪定をおこなう。今ある桜はこまめな剪定により道路の建築限界と干渉しないコンパクトな樹形を維持しつつ、日照と土壤環境の改善により満開の桜を目指す。今後様々な問題により桜が衰退する可能性が高いため改善措置の優先順位は高い。

### <管理・環境改善の手法>

**日照**・隣り合う樹木の枝葉を剪定し、日当たりを改善・維持する

- ・近くに衰退した樹木があれば間引く

**管理**・道路への越境を見越し、計画的・周期的にこまめに剪定する

- ・枝は公園内に伸ばす
- ・太枝の剪定は適切な位置で行い傷を癒合剤で保護する

**土壌**・エアレーションなどを行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する

- ・肥料を与え、新たな枝葉の萌芽・再生を促進する

**植替**・植替えの際には、適切な日照と樹木間隔を確保する

- ・境界から距離をとり公園の内側に寄せて植える
- ・道路への越境防止や、根が広がる範囲の狭さを考慮し植替えには中～小型品種を採用する

将来像に近い桜



中町せせらぎ緑地公園



宮前公園

### 保 ③間仕切り(目隠し) 植栽帯

将来像：若木の健全な成育を見守る

園内の各エリアの間にあり目立つ桜。中型の品種や近年植栽された若木が多く生育は比較的良い。一部の健全化が困難な桜は植栽柵に見合った中～小型品種により植替える。今ある若木に対しては標準的な年間管理を実施し健全な生育を見守る。当面は健全な生育が期待できる。

<管理・環境改善の手法>

- 植替**・植替えの際には、適切な日照と樹木間隔を確保する
  - ・植栽基盤のサイズに見合った中～小型品種を採用する
  - ・植替えの際は土壌を改良して植え付ける

### 保 ④高木点在広場

将来像：根が地表へ露出することを予防し、桜に優しく人も歩きやすい環境を整える

広場に緑陰を提供するため豊かな枝葉が求められる。土壌の問題により桜が徐々に衰退する可能性が高いため計画的な改善措置を要する。エアレーションにより土壌をほぐし根の再生を図る。太根が地表に露出し広場の足元が凸凹になっているため、植替えをした桜に対しても定期的エアレーションを行い根上りを予防する。土壌の再固結を防ぐためには根元を可動柵などで保護することが望ましい。ベッコウタケが生じている桜は定期的な点検・評価を行う。可能であれば支柱等の安全対策により桜を維持するが、広場利用の為に設置が難しい場合は植替える。

<管理・環境改善の手法>

- 安全**・倒木につながるベッコウタケを監視し、桜の状態を把握する
- 土壌**・エアレーションなどを行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する
  - ・肥料を与え、新たな枝葉の萌芽・再生を促進する
  - ・公園利用との両立を図りつつ根元を保護する
- 植替**・植替えの際には適切な日照と樹木間隔を確保する

将来像に近い桜



現状

菅刈公園  
間仕切り(目隠し)植栽帯



現状

伊勢脇公園  
高木点在広場

## 保 ⑤緑陰植栽広場

将来像：根をいたわり健全な成育を維持する

園路やベンチなどに緑陰を提供するため豊かな枝葉が求められる。現在の生育は良好だが、長期的には土壌の問題が桜の生育に徐々に影響する可能性が高い。梢端枯れなど土壌の異常の徴候が顕れた場合は、エアレーションにより土壌をほぐし根の再生を図る。

<管理・環境改善の手法>

**土壌**・適宜のエアレーションなどを行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する

## 保 ⑥シンボル樹木

将来像：手厚い手当てにより、シンボルに相応しい見ごたえのある桜とする

公園のシンボルとして存在感のある樹形に満開の桜が求められる。古木が多くベッコウタケやコフキタケ等の腐朽菌により腐朽が拡大し、樹体支持力の低下、樹勢の悪化、樹形の乱れが起こる可能性が高い。改善措置の優先順位は最も高い。これらの腐朽菌が生じている桜は定期的な点検・診断を行う。支柱の設置により安全を確保しつつ、エアレーション、施肥、こまめな剪定を実施することで、今ある桜をシンボルに相応しい見ごたえのある桜として保全する。

<管理・環境改善の手法>

**安全**・倒木につながるベッコウタケやコフキタケを監視し、桜の状態を把握する  
・強度不足の桜は支柱やケーブルで倒木を防止する

**土壌**・エアレーションなどを行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する  
・肥料を与え、新たな枝葉の萌芽・再生を促進する

**管理**・枯枝や腐朽枝はこまめに剪定する  
・太枝の剪定は適切な位置で行い傷を癒合剤で保護する

将来像に近い桜



現状

西郷山公園  
緑陰植栽広場



現状

南一丁目緑地公園  
シンボル樹木

## 再 ⑦自然樹林植栽帯

将来像：日照を改善し樹林地に映える桜を目指す

他の高木と混ざって咲く桜。他の高木に囲まれるため日照不良により生育不良が拡大する可能性が高い。改善措置の優先順位は高い。今ある桜に対しては隣接樹木の剪定による日照の確保をおこなう。健全化が困難な桜は植替えを実施する。その際は日照の確保に努める。具体的には樹林地外への植替え、適正間隔での植替え、競合樹木の剪定、東～南方向の日照の確保である。これらにより他の樹木との共存を目指す。

<管理・環境改善の手法>

- 日照**・隣り合う樹木の枝葉を剪定し、日当たりを改善・維持する
  - ・近くに衰退した樹木があれば間引く
  - ・比較的健全で若い桜は適地へ移植する
- 管理**・伸び過ぎた桜の枝は太る前に剪定する
  - ・太枝の剪定は適切な位置で行い、傷を癒合剤で保護する
- 植替**・植替えの際には適切な日照と樹木間隔を確保する
  - ・他の立地や樹林の外周への植替えを優先的に検討する

## 保 ⑧修景目的植栽帯

将来像：日照を確保し園内を彩る壮年期の桜に育てる

園内随所で様々な形態がある。近年植栽された若木が多く生育は比較的良いが、桜同士が高密度で植栽されており、樹木の生長に伴い日照環境が桜の生育に影響する可能性が高い。対策は競合樹木の剪定、過密な桜の移植である。移植は桜が若く小さい間に行うことが望ましい。当面は健全な生育が期待できる。

<管理・環境改善の手法>

- 日照**・隣り合う樹木の枝葉を剪定し、日当たりを改善・維持する
- 植替**・過密な桜は適地へ移植する

将来像に近い桜



大坂緑地  
自然樹林植栽帯



中目黒公園  
修景目的植栽帯

## 保 ⑨建物周辺植栽帯

将来像：日照を改善し今ある桜と他の樹木との共存を目指す

他の高木と混ざって咲く桜。他の高木に囲まれるため日照が不足し生育不良の拡大が懸念される。著しい樹勢不良は生じていないため、まずは隣接樹木の剪定により日照を確保することで他の樹木との共存を目指す。

<管理・環境改善の手法>

- 日照**・隣り合う樹木の枝葉を剪定し、日当たりを改善・維持する
- ・近くに衰退した樹木があれば間引く

## 保 ⑩日本庭園

将来像：土壌の改良により、庭園に相応しい見ごたえのある桜を目指す

日本庭園の中核となる桜。土壌の踏圧・固結により太根が顕著に地表に露出しており、土壌の養分が少ない。エアレーションにより土壌をほぐし根の再生を図ることで、庭園に相応しい見ごたえのある桜を目指す。

<管理・環境改善の手法>

- 土壌**・エアレーションなどを行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する
- ・肥料を与え、新たな枝葉の萌芽・再生を促進する

将来像に近い桜



現状

すずめのお宿緑地公園  
建物周辺植栽帯



現状(秋)

菅刈公園  
日本庭園

充 ⑫芝生・野草広場

将来像：広い空間と芝生で根が守られていることを活かしたゆとりある樹形の桜を目指す

広々とした空間に咲く桜。日照条件が良く根元が芝生で守られているため、桜にとっての生育上の問題は少ない。区立公園で最も環境の良い立地である。一部で土壌の問題があるため、長期的には土壌の問題が桜の生育に徐々に影響する可能性がある。梢端枯れなど土壌の異常の徴候が顕れた場合は、エアレーションにより土壌をほぐし根の再生を図る。空間が広いいためゆとりある樹形に育てることができる。また新たに桜を補植する余地もある。

<管理・環境改善の手法>

**土壌**・適宜のエアレーションなどを行い土壌の通気性を高め根の再生を促進する



将来イメージ

芝生・野草広場の大きく育った桜と外周部のコンパクトな桜がある公園

将来像に近い桜



現状

中目黒公園  
芝生・野草広場



現状

駒場公園  
芝生・野草広場

(3) 将来像実現の技術と方法

1) 植替え品種

ア) 品種の選定指針

桜の健全な成育を長期間維持するには、植栽地のサイズにあった品種選びが第一である。空間に余裕のある場所にはソメイヨシノのように大型の品種も植えられるが、狭い場所では中型や小型の品種が適する。空間サイズ以上に大きくなる桜を植えることも可能だが、健全で美しい状態を保つには庭園のような高頻度の手入れが必要になる。品種の選定にあたっては個々の場所ごとに、空間サイズ、地域の要望、これまで植栽されていた品種の雰囲気、管理頻度等を考慮し検討する必要がある。

<植替え品種の候補>

区立公園には、外周部や間仕切り(目隠し)植栽帯などコンパクトな品種が適した空間が園内各所にある。中型や小型の品種を含む比較的強健な品種を候補とする。

区立公園に適した品種の一例

花期 サイズ	3月上旬	3月中旬	3月下旬	4月上旬	4月中旬	4月下旬
大型		【コシヒガン】 【イトヒガン】	【シダレザクラ】	【マイヒメ】 【ジダ イケホノ】 【ソメイヨシノ】 【カミヤマシダレ】	【サナザクラ】 【ヤマザクラ】 【伊予】	【カンザン】 ギョイウ
中型	【カツザクラ】				【オモイガワ】 【アマノガワ】 【センタ イダレ】	
小型			タカサゴ 【オカメ】			

凡例 囲み線が一重線:一重 二重線:半八重・八重・菊咲き 斜字:枝垂れ 【 】:特に強いと思われる品種  
 花色: 紫紅 濃紅 淡紅 白 黄緑

\*温暖化の影響により都市部では上記表より10日以上開花が早まっている





表 <候補品種の比較表>

大型になる品種(樹高8m以上)

品種名	選定理由	花期	花色	花形	大きさ	ボリューム	樹形	強靱さ	流通
マイヒメ	最近普及が進む品種。標準咲き、淡紅、八重、ボリューム大。エドヒガン系統で強靱な可能性が高い。	標準 4月上中旬	淡紅	八重	中輪	大	盃状	◎?	あり
サノザクラ	ヤマザクラ系で強靱と推測され、郊外の公園での実績もあったため追加した品種。遅咲き、淡紅、半八重。	遅咲き 4月上旬	淡紅	半八重	大輪	中	盃状	◎?	まれ
ソメイヨシノ	標準咲き、淡紅、ボリューム大。現代人の桜のイメージに一番合致する。病害虫に弱い。大径木化で問題を抱えることも多いが環境適応力が高く成長がいいことの裏返し。比較的強靱。	標準 4月上旬	淡紅	一重	中輪	大	傘状	○	あり
ジンダイアホノ	標準咲き、淡紅、ボリューム大。ソメイヨシノよりやや小型。花もソメイヨシノに類似するが、テング巢病耐性があることから近年植栽例が多い。比較的強靱と思われる。	標準 4月上旬	淡紅	一重	中輪	大	傘状	○	あり
イチヨウ	遅咲き、淡紅、八重、大輪、ボリューム大。比較的強健。	遅咲き 4月中旬	淡紅	八重	大輪	大	広卵状	○	あり
エドヒガン	早咲き、淡紅、ボリューム大。天然記念物や巨樹に多く見られる種。桜の中では最も強靱といえる。	早咲き 3月中旬	淡紅	一重	中輪	大	傘状	◎	あり
カンザン	遅咲き、濃紅、八重、ボリューム大。シンボル性が高い。強くて育てやすいと言われる。	遅咲き 4月下旬	濃紅	八重	大輪	大	盃状	◎	あり
コシノヒガン	近年街路樹等でも用いられる有望品種。早咲き、淡紅、大輪。エドヒガン系なので強靱な可能性が高い。	早咲き 3月中旬	淡紅	一重	大輪	中	傘状	○	あり
かみヤマシダレザクラ	標準咲き、淡紅、ボリューム大。エドヒガン系で強靱。	標準 4月上旬	淡紅	一重	大輪	大	枝垂れ	◎	あり
シダレザクラ	早咲き、淡紅、ボリューム大。シンボル性が高い。エドヒガン系で強靱。	早咲き 3月下旬	淡紅	一重	小輪	大	枝垂れ	◎	あり

凡例 ◎:強い ○:やや強い △:普通 ×:弱い ××:明らかに弱い 空欄:情報なし ? :交配親等からの推

中型の品種(樹高3m~8m)

品種名	選定理由	花期	花色	花形	大きさ	ボリューム	樹形	強靱さ	流通
カワヅザクラ	早咲き、紫紅、大輪。比較的強靱と推測される。よく知られた人気の品種。近年よく見かける。	早咲き 3月上旬	紫紅	一重	大輪	中	傘状	○?	あり
オモイガワ	遅咲き、淡紅、半八重。比較的強靱と推測される。半八重で見ごたえがある。珍しい品種。	遅咲き 4月中旬	淡紅	半八重	中輪	中	傘状	○?	あり
アマノガワ	桜には珍しく細長い樹形で狭小地に対応できる貴重な品種。遅咲き、淡紅、八重、大輪。比較的強靱と推測されるが樹形がサクラらしくないのが好みがわかれるところ。	遅咲き 4月中旬	淡紅	八重	大輪	中	円柱状	○?	あり
セウゲイザクラ	中型品種の枝垂れ性品種。遅咲き、ボリューム大。ヤマザクラの変異と考えられ強靱。	遅咲き 4月中旬	白	一重	中輪	大	枝垂れ	◎	あり

凡例 ◎:強い ○:やや強い △:普通 ×:弱い ××:明らかに弱い 空欄:情報なし ? :交配親等からの推

小型の品種(樹高3m以下)

品種名	選定理由	花期	花色	花形	大きさ	ボリューム	樹形	強靱さ	流通
タカサゴ (ナデン)	小型品種のなかではマメザクラの影響が少ない貴重な品種。(マメザクラ系統は比較的強靱さに劣る傾向がある。)古い品種で公園での植栽実績もあったため追加した品種。標準咲き、淡紅、八重。	標準 4月上旬	淡紅	八重	大輪	中	盃状	△?	まれ
オカメ	非常に樹高が低い品種。早咲き、紫紅。公園植栽では一般的ではないが、ごくまれに街路樹や民間狭小地に植栽されている事例が確認され、比較的強靱と推測される。	早咲き 3月下旬	紫紅	一重	小輪	中	広卵状	○?	あり

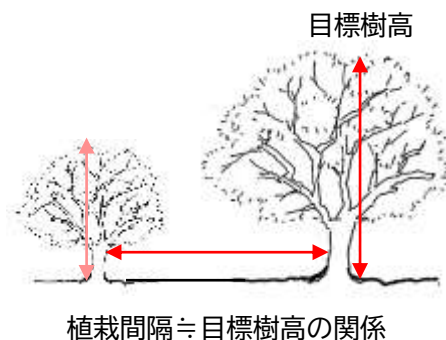
凡例 ◎:強い ○:やや強い △:普通 ×:弱い ××:明らかに弱い 空欄:情報なし ? :交配親等からの推

## 2) 植栽間隔

### ア) 植栽間隔の目安

桜と隣接中高木の植栽間隔は、枝葉の競合被圧による日照不足や、枝の擦れによりできた傷からの病原菌の侵入を防ぐことができる間隔が望ましい。

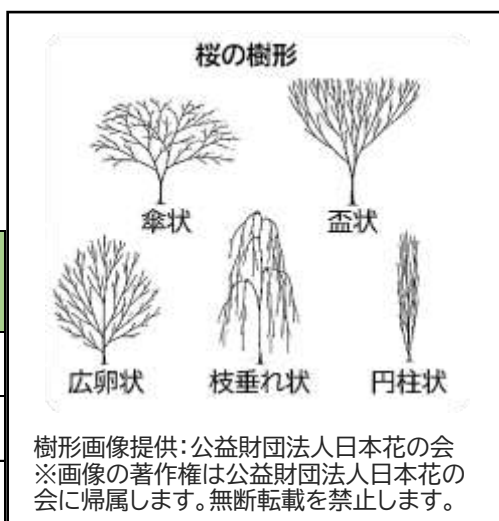
具体的には、桜同士が隣接する場合はより高くなる桜の目標樹高を植栽間隔の目安とする。樹高を基準とする理由は、ソメイヨシノ等の桜が、開けた土地で支障なく健全に育った場合に、樹高と枝張りがほぼ同程度のサイズとなることを根拠としている。例えば、典型的には樹高8m～12mに成長するソメイヨシノの場合、植栽間隔を10m以上とるのが理想とされ、少なくとも8m以上の植栽間隔が推奨されている。



各種桜の目標樹高と樹形ごとの植栽間隔の目安を下表に示す。傘状、盃状、広卵状、枝垂れ状の樹形をした品種については、目標樹高と同程度の植栽間隔をとる。ただし、アマノガワ等の円柱状の桜は葉張りが狭く、樹高の半分程度を植栽間隔の目安とする。

植栽間隔の目安

目標樹高 \ 樹形	傘状 盃状 広卵状 枝垂れ状	円柱状
8m以上	8m以上 (ソメイヨシノ)	—
3～8m	6～8m以上 (カワズ オモイガワ)	3m～4m以上 (アマノガワ)
3m以下	3m以上 (オカメ タカサゴ)	—



### イ) 植栽間隔の目安が確保困難な場合の対処

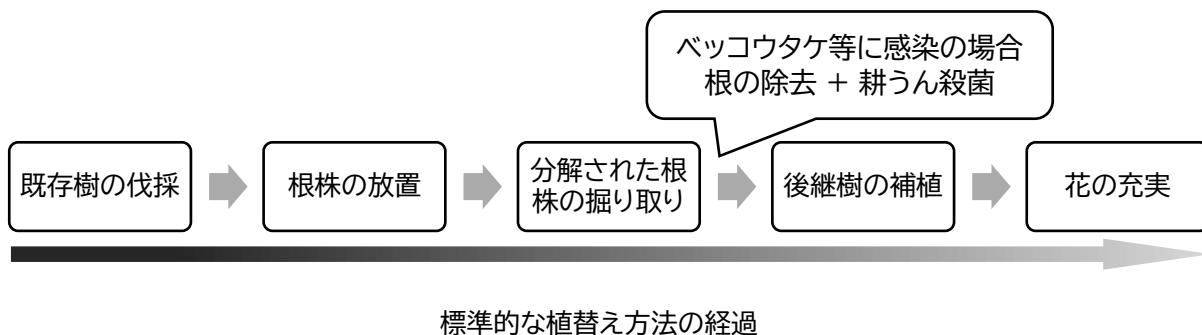
公園の桜は施設・利用者・他の樹木と限られた空間を共有する必要があり、桜の四方で植栽間隔の目安を満たすことが困難な場合も起こりうる。その場合は、桜の生育に重要な東～南からの日当たりを確保するために東～南の植栽間隔を優先的に確保し、北～西は若干狭い間隔を許容して枝葉の広がりを剪定で調整する方法が現実的である。隣の樹木の枝葉を透かす剪定も有効な対策である。

### 3) 植替え方法 - 世代交代 -

#### ア) 標準的な植替え方法

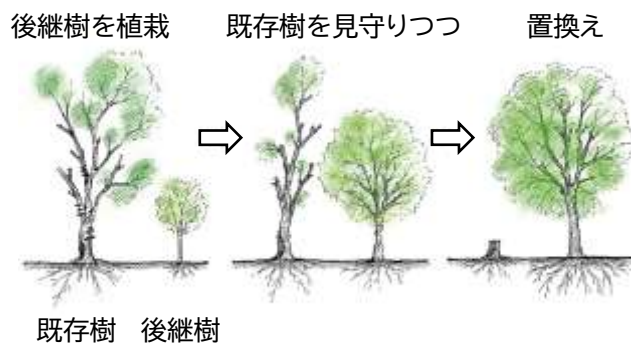
根株から生えた根は土壌と一体となっており、幹の伐採直後に根株を掘り取ろうとすると、大変な労力がかかる。また、断根しながら掘り起こそうとすると、地下の構造物や近隣樹木の太根を傷つける可能性がある。このため、根株の抜根は数年間放置して分解が進み掘り取りやすくなった後に行う。

また、ベッコウタケ、ナラタケ類の危険なキノコに感染していた場合は、後継樹が土中の病原菌に感染するのを防止するため、根株と一緒に根も掘り取り、深さ 1m 程度まで耕うんすることで殺菌を行う。その場合は、伐採から後継樹を植え、花の見ごたえが出るまでに 10 年程度の時間がかかると見積もられる。



#### イ) 世代交代

桜の健康状態は様々で、手当てにより健全になる桜、枯下りや空洞化が進み健全化が困難な桜、既に枯死に近い不健全な桜がある。不健全な桜は安全上も問題がある場合が多いので撤去植替えが原則である。一方、健全化は困難だが支柱等で安全上のリスクがコントロール可能な桜は、伐採の前に後継の桜を植え育て、ある時点で完全に置き換える世代交代を行う。この方法は今ある桜の命を大切にできる点、開花時のボリュームをある程度維持できる利点がある。課題は計画に沿った管理を既存樹と後継樹の双方に対し長期間継続する必要があり手間とコストがかかることである。



植替え候補の桜がベッコウタケやコフキタケに感染している場合は、近隣樹木の感染確率が増大すると考えられるためこの方法は適さない。

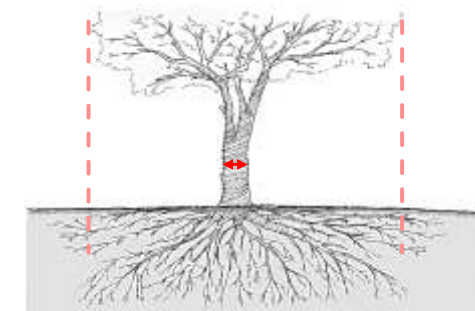
#### ウ) 樹名板の設置

桜を新植した際には樹名板を設置する。樹名板が老朽化した際には適宜更新する。

#### 4) 根の保護と再生

##### ア) 根の伸張範囲

桜の根は枝葉よりも遠くに伸びる。重要な根が広がる範囲は、幹の直径の18倍に及ぶとする説がある。一方で、公園では限られた空間を人と桜がシェアしている。人の立ち入りにより傷んだ根をケアして根の保護と人の利用を両立する必要がある。根元近くへの立入を抑制すると同時に、枝葉の下へ利用者が立ち入らざるを得ない範囲はエアレーション等の土壌改良により土と根を再生する。



重要な根が広がる範囲(幹直径の18倍)

根の伸張範囲 (イメージ)

##### イ) 立ち入りの抑制

根元近くへの立ち入りを抑制する。草花、低木、可動式または常設の柵で根元を囲む方法がある。柵は確実だが公園の景観に配慮する工夫が求められる。低木は課題が少ないが剪定など定期的な手入れが必要となる。区立公園ではアガパンサス、ツワブキ、キキョウ、リュウノヒゲなどの多年草で根元を囲む方法が適する。立ち入りの抑制効果は強くないが、草花にミミズ等が住み着き土壌が健全に保たれる点、花が咲き景観が良くなる点、比較的ローメンテナンスで維持可能な点が適する。立地の状況に応じた使い分けが必要となる。根元の保護と合わせて、公園利用者に桜の保護の方法や意義を周知・啓発する。

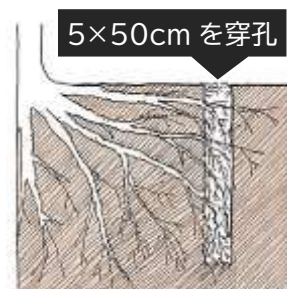


立ち入りの抑制による根の保護

##### ウ) エアレーション

良質な土は空気の通り道となる隙間を多く含む。人が立ち入ると隙間が踏み潰され、空気の通り道が無くなる(踏圧)。植物の根は養水分以上に酸素を必要としており、酸欠になると衰退する。地上部も枝葉の先から枯れる。

エアレーションは高圧空気をを用い、土壌に直径5cm 深さ 50cm 程度の孔(あな)をあける工法である。孔が空気の通りを改善し根が再生される。同時に肥料や土壌改良資材を充填することもできる。掘削で根を傷めない点、低木が込み入った場所でも施工できる点、比較的小さな労力で実施できる点が利点である。一方、広い面積の改良は不得意で、状況に応じ他の方法と使い分けが必要である。



エアレーションによる根の再生

## 4. 桜の維持管理

### (1) 問題点改善のための措置・対策

桜の生育上の問題点と改善のための措置・対策を示す。この中には後述する通常の年間管理作業で可能な措置から、スポット的措置、植栽帯の拡張など公園の園路・広場等の施設の有り様とも密接に関連するものも含んでいる。各エリアの問題点と個々の桜の状況に応じ、適切な措置や対策をとる。

#### 生育上の問題点と改善の措置・対策

生育上の問題		措置・対策	
問題の種類	問題点	既存樹	新植・植替え
日照	競合被圧	剪定、競合樹木の間引き、移植	小型品種に転換
土壌	踏圧・固結	エアレーション、割竹挿入縦穴式土壌改良法、耕うん、立ち入り抑制	
	養分不足	施肥、土壌改良	
	根の広がり (植栽基盤サイズ)	植栽帯の拡幅、土壌改良、灌水・施肥	適正な植栽間隔
	水分不足	植栽帯の拡幅、土壌改良、灌水	適正な植栽間隔
	排水不良	不透水層の穿孔	
剪定・管理	越境	こまめな剪定、警戒色テープの巻き付け	位置の見直し
	強剪定	こまめな剪定、適切な剪定、癒合剤の塗布、枯下り対策	位置の見直し
	架空線接触	こまめな剪定、保護管設置	位置の見直し
	がんしゅ	剪定	
安全 リスク管理	倒木等の危険性	定期的な点検・樹木診断、支柱、ケーブリング、樹勢向上、伐採 予防(癒合剤塗布、傷付け防止、露出根の踏みつけ防止)	土壌の消毒
その他		病害虫防除	世代交代

#### ア) 日照不足

##### ●競合被圧

日照を確保する。特に東～南からの日当たりが確保できるようにする。措置は競合する枝葉の剪定、競合樹木の間引き、目標サイズより大きい桜の縮小剪定、根株が確保できる若い桜の適地への移植、小型の桜への植替えである。

##### ●密度・植栽間隔

密度が高い場合や植栽間隔が狭い場合は、樹木間隔が適正になるよう次の措置をとる。健全な既存樹木の移植、不健全または健全化困難な桜の伐採、いずれも実施困難な場合は、剪定により、隣接樹木同士の枝葉が競合しないようにする。植替えは空間サイズに適した品種の桜を適正間隔で配置する。(P. 49「植栽間隔の目安」を参照)

## イ) 土壌

### ●踏圧（踏み固め）・土壌固結

まず土壌の通気性を高める必要がある。措置には、根元の周りの土壌を圧縮空気で穿孔するエアレーション法、ダブルスコップで掘削した孔に割竹を挿入する割竹挿入縦穴式土壌改良法がある。シンボルツリー等の重要度が高い樹木に対しては、根元周りの土壌をエアスコップで除去し改良土壌と置き換える方法がより確実である。割竹土壌貫入法は住民参加が容易である。(P. 51「エアレーション」, P. 59「土壌改良」を参照)

更に、再固結の緩和・防止措置として、桜の根元の周りに多年草等の草本植物や地被を植える方法、侵入防止の柵等で囲む方法がある。桜の生育だけを考えた場合、根の保護範囲は樹冠と同程度のサイズが理想だが、利用を前提とした公園においては、利用者動線を踏まえ、根の保護範囲を個別に決定する必要がある。保全の必要性が高い桜が利用者動線上にある場合には、木道やウッドデッキにより根元周辺を踏み固めないようにする場合もあるがごく稀な工法である。(P. 51「立ち入りの抑制」を参照)

### ●養分不足

土壌の保肥力改善と養分供給のために有機質肥料を主体とした壺肥えとする。なお、樹木の樹勢不良は、競合被圧、踏圧・土壌固結や不適切な強剪定が主たる原因であることが一般的であるので、そちらの改善を優先して検討すべきである。施肥による問題解決は補助的に実施する。(P. 59「施肥」を参照)

### ●根の広がり（植栽基盤サイズ）

養水分を吸収する細根の分布域を広げるために植栽帯を拡幅する。これが不可能な場合は、土壌改良（エアレーション）、灌水・施肥等により細根の発達を促し、樹勢回復を図る。根詰まりを起こした植木鉢状の植栽では、太い根を避けながら土壌を切り出し新たな土壌を充填することで、根系のリフレッシュを図ることが有効である。



根詰まりへの措置

### ●水分不足

夏季の渇水時には灌水を行う。根本的な対策としては植栽帯の拡幅が望ましい。土壌のエアレーションやマルチングも土壌の保水能力を向上するので有効である。(P. 60「灌水」を参照)

### ●排水不良

現状では問題は発生していない。排水不良が生じた場合は地中の不透水層を貫くように穿孔をする。土壌が粘土質である場合は黒曜石パーライトや砂を混合して充填する。

## ウ) 剪定・管理

### ●越境

越境枝はいずれ発生するものと予定し、計画的・周期的にこまめに剪定を行う。なお、越境が軽微な場合は、越境部分に警戒色テープを巻くなどして交通の安全性や円滑性を確保する対策が取られる事例もある。



警戒色テープの例

### ●強剪定（越境枝・架空線接触枝対策、枯下がり枝の切断）

越境枝・架空線接触枝等の支障枝はいずれ発生するものと予定し、計画的・周期的にこまめに剪定を行うことで強剪定の必要が生じないようにする。一つの目安として、桜の枝は人の手首程度の太さ（直径 5cm 程度）になる前に剪定すると良いと言われており、2～3 年周期の剪定が望ましい。やむを得ず太枝を剪定・切断する際は、傷の回復が早まるように適切な位置での切除に努め、切断面を癒合剤で保護する必要がある。

競合被圧により枯れ下った枝を強剪定したあとが見られる。直接的な措置は適切な位置での剪定、癒合剤塗布の徹底であるが、予防的には、枯下り発生の原因となる被圧競合または踏圧への対策が必要である。(P. 58「剪定」を参照)

### ●架空線接触

架空線に接触する枝を剪定する。接触が軽微な場合は、架空線に保護管を設置する措置もある。

### ●がんしゅ

がんしゅの発生枝をこまめに切除し感染の拡大を防止する。現時点で利用可能な薬剤はない。健全な枝葉に隠れた罹患枝による落枝事故に注意する。(P. 60「がんしゅ」を参照)

## エ) 安全リスク管理

### ●倒木等の危険性（ベッコウタケ・コフキタケ・ナラタケ類・腐朽・空洞）

対策を大きく分けると感染木への措置と予防がある。感染木に対しては、リスク管理の観点から倒木や倒伏を防止するために定期的な点検・樹木診断を行う。点検・診断の結果に応じて、支柱やケーブルリングにより支持力を補う。リスクが許容範囲に収まっている間は、施肥・灌水により腐朽に対抗するように樹勢を改善する。リスクが許容範囲を超えた場合は伐採し、利用者および第三者の安全確保ならびに施設等の損傷を防止する。

予防は腐朽菌の侵入口となる傷を作らない、木部を露出しないことが重要である。具体の措置として、剪定時の癒合剤塗布、雑草や芝刈の際の根元の傷付け防止、露出根の踏みつけ防止がある。可能であれば孢子飛散期の剪定を控えることも有効と思われる。

(P. 57「安全上注意すべき項目」を参照)



## オ) その他

### ● 樹勢回復

樹勢とは、花付きや葉色、枝葉の密度といった桜の全体的な元気さのことをいう。区立公園の桜の樹勢低下は、主に日照、土壌、剪定・管理が原因である。樹勢回復はこれらの問題点を改善することにより行う。早急な樹勢回復が必要な桜には、こうした措置を優先的かつ十分に行う。液肥の葉面散布も有効である。現状では虫害による顕著な樹勢低下は確認されていないが、虫害による影響が現れた場合は必要に応じて防除を行う。

## (2) 標準の年間管理

### 1) 年間管理暦

桜は四季に応じた葉、根、花の成長サイクルを持っており、これに対応した管理を行う。下記に示した年間管理暦は、根の活着後、育成～老齢段階の桜の標準的な管理暦である。これを基に桜の成長段階や個々の状態に応じた管理を行う。

年間管理暦(ソメイヨシノ基準)

作業	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
生育	開花				花芽分化				落葉		根の休眠	
点検・診断	樹勢判定											
剪定					夏季剪定				冬季剪定			
施肥	お礼肥				寒肥							
土壌改良	(必要に応じて随時)											
灌水												
病虫害防除	虫害発生											
支柱												
除草												
植え付け												

## 2) 年間管理の作業内容

### ア) 点検・診断

#### ● 日常点検

目視による巡回により桜の生育状況、障害の発生、生育環境を確認する。異常を認められた場合は必要な措置をとる。落枝や倒木について危険な状態を見つけた場合は早急に対処する。危険の度合いや措置について詳細な検討が必要な場合は、立入禁止等の仮措置を行ったうえで樹木医による診断を行い、その後の措置を決定する。

#### ● 専門診断 (樹木診断)

樹木医による桜の樹勢・樹形・障害についての診断のこと。目視を中心に簡単な器具を用いておこなう外観診断と、樹木の腐朽度合いを専用の機器で測る機器診断がある。植栽後に一定期間が経過した桜は定期的に樹木診断を行う。日常点検で必要とされた桜も対象とする。樹木診断と同時に生育環境についても確認する。診断の結果に対応した措置を採る。



根株の機器診断

#### ● 植栽基盤診断

土壌硬度や透水性などの診断のこと。必要に応じて実施し、診断の結果は土壌の管理に反映させる。

## 安全上注意すべき項目

以下の症状は安全管理上のリスクとなるので注意して確認する。

落枝：枯枝、掛かり枝、がんしゅ

幹折：貫通した亀裂、顕著な入皮

倒木：ベッコウタケ、コフキタケ、ナラタケ類、開口空洞、顕著な腐朽、  
不自然な傾斜、根元の揺れ

### <危険なキノコ>

#### ●ベッコウタケ

地際部の内部を腐らせ、特に病原性が高い。都市環境によく適合し街路樹や公園でしばしば発生している。キノコ（子実体）は5～6月に発生し夏にかけて成長したあと、次第に朽ちる。形態の変化が著しく、色も黄色～褐色～黒色と変化するので見落としに注意する。

#### ●コフキタケ

ベッコウタケよりは病原性は低いが必要である。幹と大枝の分岐部に生じている場合や、子実体のある部位が大きく膨らむ場合は樹体の強度低下が著しい。キノコ（子実体）は硬く毎年大きくなる。傘の外側は褐色をしている。

#### ●ナラタケ類

寄生性が強く、地際部の形成層を侵食し樹勢の低下や枯死を引き起こす。都市部では稀にしか見られない。キノコ（子実体）の傘は黄褐色～茶褐色をしているが、数週間で萎びて次第に黒変する。見落としに注意する。



### <危険なキノコに対する措置>

#### 感染木

- ・定期的な樹木診断により安全に対するリスクを適正に評価する
- ・支柱やケーブリングで支持力を補強する
- ・土壌改良と施肥または灌水により肥大成長を促し被害の進行と拮抗させる
- ・リスクが許容できなくなった時は伐採する。大枝の場合は切除する

#### 予防

- ・桜を傷つけない、傷を保護する（癒合剤塗布、冬季剪定の徹底、草刈り時の注意）
- ・ベッコウタケやナラタケ類の被害地に植える際は土壌殺菌を徹底する
- ・剪定器具・調査器具を介した伝染の防止

## イ) 剪定

桜は傷や剪定あとから腐りやすい。区立公園でも剪定あとからの腐朽が幹にまで達しているものがあった。将来の支障枝や忌み枝は、細く傷が治る可能性が高いうちに、計画的・予防的に剪定を行う。

### <冬季剪定>

基本の剪定である。直径 5cm 以上の枝の剪定や太枝の枝おろしは冬季に行う。冬季に適した剪定目的は以下の通り。

- ・桜の樹冠サイズを一定に維持する剪定
- ・枯枝や支障枝の除去
- ・病虫害の被害を受けた枝の除去
- ・通風・採光を妨げる忌み枝、ひこばえ、胴吹き of 除去
- ・太枝おろしなど太い枝の剪定

### <夏季剪定>

安全上やむを得ない場合や、支障枝、過繁茂枝の切除など最小限にとどめる。直径 5cm 以上の枝の剪定や太枝の枝おろしを春や夏など水揚げの盛んな時期に行うと、傷の癒合が緩慢になり腐朽菌への感染確率が高まる。安全上の問題がない限りはなるべく避ける。

### <正しい剪定>

- ・切断面を傷めないように鋭利な刃物で切断する
- ・枝が分岐する真上で切る「切返し剪定」が原則。細枝を除き、枝の途中で切断する「切り詰め剪定」はなるべく避ける。
- ・太枝を切除する際は、分枝基部の膨らみ（ブランチカラー）やバークリッジを傷つけないように注意する。
- ・直径 5cm 以上の枝を剪定・切除した場合は、腐朽防止のため癒合剤を確実に切断面に塗布する。大きな傷は治らないことも多いので、年単位で定期的な塗り直しが必要となる。



不適切な剪定あと



適切な剪定あと



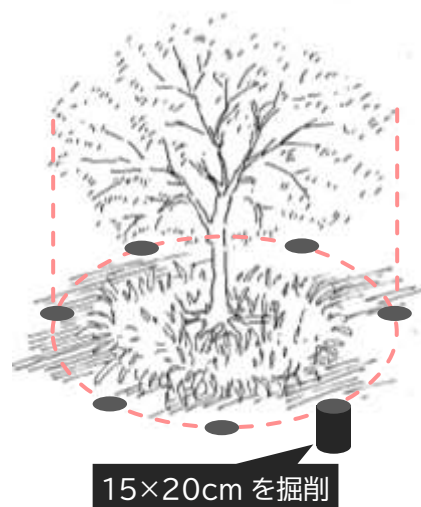
剪定方法



癒合剤

## ウ) 施肥

桜への施肥や土壌の養分不足の改善は、冬季にバーク堆肥等の有機質肥料を主体とした肥料を壺肥えにして実施する。この方法は養分供給に加え踏圧改善や生物性の改善も見込めることから理想的な方法であるが、掘削、混合、埋め戻しの手間がかかる。花後のお礼肥や樹勢回復を目的としたスポット的な施肥であれば、化成肥料をバラまくのでもよい。堆肥や肥料の施用はエアレーション等の土壌改善と併せて行う事でより高い効果が期待できるため、寒肥と土壌改良は同時の実施が望ましい。



壺肥えの方法

### <壺肥え>

樹冠の真下を目安に、ダブルスコップで直径 15cm・深さ 20cm 前後の穴を掘り、肥料を充填し覆土する方法。太根を傷つける心配がないのであれば、幹から 1.5m 離れた場所から～樹冠の真下の間で実施してよい。

### <施肥量>

- ・施肥量は肥効率と含有率を考慮し規定量を与える。
- ・バーク堆肥で不足する分は緩効性の化成肥料などを混合して補う。
- ・根の肥料焼けや土壌のアルカリ化を引き起こすのでやり過ぎないように注意する。
- ・お礼肥は樹勢の悪いものに対し寒肥の 1～2 割程度を施す

## エ) 土壌改良

区立公園の土壌改良は、踏圧改善、土壌の養分不足の改善を目的に、エアレーションや土壌改良資材の投入により実施する。加えて、落葉やバーク堆肥等によるマルチングが望ましい。

### <施工方法>

#### ●圧縮空気を用いたエアレーション

根元が入り組んだ場所でも施工でき、根が傷つく心配が少ない比較的小労力の方法。一方、広い面積の改良には向かない。区立公園の桜にはこの方法が適しているものが多い、この方法を原則とする。(P. 51「エアレーション」を参照)

#### ●割り竹挿入縦穴式土壌改良法

ダブルスコップで掘削した孔に、割って節を除去した竹を通気管として挿入する方法。特別な機器を必要としないのが利点だが、地中の太根を傷つけないように掘削場所を決めるのが重要。また、穴掘りに労力を要するため一度に施工できる数は少ない。

### ●表土の耕うん

効果は高いが、根を傷つけない為のエアスコップによる掘削や、施工中に根が乾燥しないように工夫を要するなど手間と労力がかかる。比較的広い作業場所が必要になるため芝生・野草広場の桜に適する。

#### <資材>

エアレーションで生じた穴はそのままでもよいが、バーク堆肥や化成肥料を混合して充填すると養分の供給にもなる。土壌が著しく粘土質である場合は、黒曜石パーライトや砂を混合して土性を改良する。

柵に囲まれた植栽地など、人が立ち入らず飛散の恐れが少ない環境であれば、落葉や腐葉土によるマルチングも土壌改良に有効である。

### オ) 灌水

夏季に降雨がない日が続き、葉の端が丸まったり異常落葉がおきた場合は、灌水を行う。アスファルトに囲まれた狭い植樹や植栽帯の桜で特に発生しやすい。方法はホースを用いた表面灌水とする。地中の根に水分が行き渡るように十分な量をゆっくり与える。夏季は早朝か夕方に実施し日中は灌水を避ける。

### カ) 病虫害防除

病虫害防除は原因菌や虫のライフサイクルに注意し効果的に対処する。桜の主な病虫害について以下に記載する。安全上のリスク要因となるベッコウタケ等の腐朽病害はP. 57の「安全上注意すべき項目」を参照のこと。

#### <病害>

桜が罹患する代表的な病害は、がんしゅ（サクラがんしゅ病、サクラこぶ病）、てんぐ巣病、幼果菌核病、こうやく病、根頭癌腫病である。特に、落枝や樹冠縮小をもたらす「がんしゅ」や、放置すると枯死に至る「てんぐ巣病」に注意する。

### ●要注意病害

#### ・がんしゅ

枝の途中にこぶができ、発生部位から先の枝が枯れて落枝する病気。発生すると、数年をかけて徐々に枝枯れが広がり、樹冠が小さくなる。樹形も乱れる。原因は菌類や細菌であり、伝染拡大は雨滴による飛散や昆虫による媒介による。がんしゅの発生枝をこまめに切除し感染の拡大を防止する。現時点で利用可能な薬剤はない。健全な枝葉に隠された罹患枝による落枝事故に注意する。都市部で比較的良好に見かけ、区立公園では外周部や芝生・野草広場などで確認された。

#### ・てんぐ巣病

小枝が多量に発生し巨大な鳥の巣状の外観を呈する。放置すると次第に樹勢が衰退し枯死に至る。菌類が原因で孢子感染する。冬季の剪定切除で防除する。現時点で利用可能な薬剤はない。都心部では見かけることはまれ。

## <虫害>

桜を害する代表的な害虫は、オビカレハ、アメリカシロヒトリ、モンクロシャチホコ、アブラムシ類、カイガラムシである。特に、樹勢を衰退させる「コスカシバ」に注意する。目黒区内では確認されていないが外来種のクビアカツヤカミキリに警戒する。

### ●要注意虫害

#### ・コスカシバ

樹体に孔をあける害虫。樹皮下にいる幼虫が形成層を食い荒らし樹勢が衰退する。5～9月に発生した成虫が樹幹の傷になどに産卵し被害木が増える。幼虫の防除は困難なのでフェロモントラップや交信かく乱剤を用いた成虫の防除に努める。根元、幹、大枝にある虫糞がまじったヤニ（樹脂）が被害の目印となる。



コスカシバの虫糞

#### ・クビアカツヤカミキリ

経済的・環境的影響が甚大であるとして特定外来生物に指定されている害虫。サクラ以外にモモやウメなどに害を及ぼす。樹皮下の幼虫が栄養を運ぶ内樹皮などを著しく食い荒らし桜を枯死させる。6～8月に発生した成虫が樹皮の隙間に産卵し被害木が増える。被害木からはスプーンでくりぬいたような形の木くずと虫糞の混ざったものが、ひき肉状に形成されて排出される（フラス）。次第にひき肉状のフラスは崩れ根元に蓄積する。晩夏に根元にたまった大量のフラスが被害木の分かりやすい特徴である。クビアカツヤカミキリは目黒区内で未だ確認されておらず侵入を警戒する必要がある。発見した場合の防除方法を予め検討しておくことが望ましい。



クビアカツヤカミキリ オス



大量のフラス

画像提供: 埼玉県環境科学国際センター ※無断転載を禁止します。

## キ) 支柱等

支柱は、植栽した若木が根付くまでの仮の支え、枝垂れ性や樹形の乱れがちな品種の枝の誘引、樹体支持力の補強を目的に適宜に設置する。樹体支持力の補強を目的とする場合は、支持力の十分な三脚鳥居支柱、井桁支柱、櫓型支柱を主に用いる。頬杖支柱、ワイヤー支柱やネットロープも状況に応じて用いる。定期的に支持力が十分か、支柱が傷んでいないかの確認を行う。養生段階に施した仮の支柱については、活着後に撤去する。桜の成長に伴い支柱の結束縄が樹体に食い込むことがある。食い込みにより生じた傷は折損や病原菌等の侵入口となるので定期的に結束の状態を確認する。

## ク) 除草

養生段階の苗木は、土壌の養水分や日照を雑草に奪われないように周囲の除草を行う。刈払い機の使用時や草刈り時に桜の根元を傷つける事故が起きているので、根元の間近は手作業での除草が望ましい。特に苗木や幼木を傷つけるとその後の生育が著しく悪化することがある。

## ケ) 植え付け（植替え・補植）

11月頃に落葉してから3月中旬までが適期である。ただし、12月下旬から2月中旬の厳寒期は避ける。植栽の手順は以下の通り。

### < 区立公園での標準的な植栽手順 >

- ・直径 2m×深さ 70cm 程度の植穴を掘る  
(標準的には直径 50cm×深さ 50cm でよいが、土壌が固結しやすく養分が少ない区立公園では上記のように大きくとることが望ましい)
- ・掘り上げた土に完熟堆肥や有機質肥料を混ぜ穴の底に埋め戻す
- ・掘り上げた土を数センチ埋め戻す(根の肥料焼け防止)
- ・苗木を置きしっかりと支柱をする
- ・掘り出した土にバーク堆肥などの土壌改良資材を混合し埋め戻す  
(根巻きされた若木の場合は、水を掛けながら土を棒でついて土と根株に隙間ができないように植栽する。)
- ・土を埋め戻し終えたら表面を軽く手で抑える
- ・鉢の周囲に同心円状に水鉢を切り灌水する
- ・活着するまでは水切れに注意する



### (3) 住民参加

近年、公園の桜の維持管理を自治体と住民が協働で行う事例がある。地域の方が日常的に桜を見守り保全していくボランティア活動は、桜守（さくらもり）活動と呼ばれ、区立公園の「桜のある景観」を維持していくうえでも大きな力になる。例えば、区立公園では以下の活動が考えられる。

#### <桜守活動の例>

桜の継続的な観察…開花状況の記録や枯枝、病気等の異常の発見を行う

施肥や水やり……………季節ごとに肥料を施す、土壌の乾燥を防ぐ

花芽観察……………花芽の数を観察し桜の健康状態を把握する

清掃活動……………開花時や落葉時の清掃を行う、落ち葉堆肥を作る



花芽観察